

(受産振 7 - 1)

宇治市産業振興センター改修機械工事 (その 2)

図 面 リ ス ト					
共-01	表紙・図面リスト	——	M-19	支援施設棟 外部周り【ガス設備】	1/200
共-02	共通特記仕様書	——	M-20	支援施設棟 2 階平面図(撤去・改修)【ガス設備】	1/50 1/100
M-01	機械設備工事 特記仕様書- 1	——	M-21	支援施設棟 機器表 系統図(撤去・改修)【換気設備】	——
M-02	機械設備工事 特記仕様書- 2	——	M-22	支援施設棟 1 階平面図(改修)【換気設備】	1/100
M-03	機械設備工事 特記仕様書- 3	——	M-23	支援施設棟 2 階平面図(改修)【換気設備】	1/100
M-04	工事区分表	——	M-24	支援施設棟 1 階平面図(撤去)【換気設備】	1/100
M-05	付近見取図	1/2500	M-25	支援施設棟 2 階平面図(撤去)【換気設備】	1/100
M-06	配置図	1/200	M-26	施工標準図	——
M-07	支援施設棟 1 階平面図	1/100	A-01	建築改修工事特記仕様書 1	——
M-08	支援施設棟 2 階平面図	1/100	A-02	建築改修工事特記仕様書 2	——
M-09	支援施設棟 立面図	1/100	A-03	建築改修工事特記仕様書 3	——
M-10	支援施設棟 断面図	1/100	A-04	建築改修工事特記仕様書 4	——
M-11	支援施設棟 機器表 系統図(改修)【空調設備】	——	A-05	建築改修工事特記仕様書 5	——
M-12	支援施設棟 機器表(撤去)【空調設備】	——	A-06	建築改修工事特記仕様書 6	——
M-13	支援施設棟 1 階平面図(改修)【空調設備】	1/100	A-07	仕 上 表	——
M-14	支援施設棟 2 階平面図(改修)【空調設備】	1/100	A-08	[改修] 支援施設棟 1 階屋上平面図	1/100
M-15	支援施設棟 機械置場 平面詳細図(改修)【空調設備】	1/50	A-09	[現況] 屋上断面図	1/30
M-16	支援施設棟 1 階平面図(撤去)【空調設備】	1/100	A-10	防水部分改修詳細図	図示
M-17	支援施設棟 2 階平面図(撤去)【空調設備】	1/100	A-11	[現況・改修] 支援施設棟 天井伏図	1/100
M-18	支援施設棟 機械置場 平面詳細図(撤去)【空調設備】	1/50			

[illegible]

	項 目	特 記 事 項																																					
一 般 事 項	工事関係書類	管轄工事契約関係書類提出書類書式集一覧表により提出。 ●宇治市ホームページ参照 <http://www.city.uji-kyoto.jp>																																					
	履行報告	月報 2部 3部 毎月末にメ、翌月の5日までに提出する。																																					
	工事写真	1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編(最新版)」による。 2) 工事成績時、整理の上、1部提出する。 3) デジタルカメラで撮影可とする。																																					
	完成図書	名 称 内 容 大きさ 部 数 ○完成図 金文字製本 A4版 1部 ○完成図 ○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め 2部 ○施工図 ○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め 2部 ●機器完成図等 機器製作図 ファイル止め A4版 2部 保守指導案内書(機器取説書を含む) 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書																																					
		副 本 ○諸官庁提出書類 1式 ○原図 完成図 1部 ●完成写真 アルバム綴り 2部																																					
	著作権等	電子納品については、現場説明書による。																																					
		当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。																																					
	付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表による。																																					
	総合試運転調整 (測定結果は報告書にて提出)	●風量調整(測定共) ○水量調整(測定共) ○室内外空気の温湿度測定 ○室内気流及びじんあいの測定 ●騒音の測定 ○別表2による ○飲料水の水質の測定 ○雑用水の水質の測定 ●室内温度測定(夏冬の切替による)																																					
	●耐震施工	1) 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 2) 下記の設計用水平震度(KH)により、機器製作固定を行う。 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設 置 場 所</th><th colspan="2">○特定の施設</th><th colspan="2">●一般の施設</th></tr> <tr> <th>重要機器</th><th>一般機器</th><th>重要機器</th><th>一般機器</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上層階、屋上及び塔屋</td><td>2.0(2.0)</td><td>1.5(2.0)</td><td>1.5(2.0)</td><td>1.0(1.5)</td></tr> <tr> <td>中 間 階</td><td>1.5(1.5)</td><td>1.0(1.5)</td><td>1.0(1.5)</td><td>0.6(1.0)</td></tr> <tr> <td>1 階 及 び 地 下 階</td><td>1.0(1.0)</td><td>0.6(1.0)</td><td>0.6(1.0)</td><td>0.4(0.6)</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設 置 場 所</th><th>○特定の施設</th><th>○一般の施設</th></tr> <tr> <th>水 槽</th><th>水 槽</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上層階、屋上及び塔屋</td><td>2.0</td><td>1.5</td></tr> <tr> <td>中 間 階</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr> <tr> <td>1 階 及 び 地 下 階</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr> </tbody> </table> 注1 耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般の施設を適用する。 屋上に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が存在する場合は、特定の施設を適用する。 注2 ()内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。 注3 設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。 注4 上層階の定義は、6階建以下の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階。 注5 重要機器(水槽類)は、下記に示すものとする。(水槽類にはオイルタンク等を含む。)【 注6 「建築設備耐震設計・施工指針(2014年版)」による形鋼振れ止め支持を行う場合はS種とする。ただし、取付け金物については標準型に準ずる。	設 置 場 所	○特定の施設		●一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)	中 間 階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)	1 階 及 び 地 下 階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)	設 置 場 所	○特定の施設	○一般の施設	水 槽	水 槽	上層階、屋上及び塔屋	2.0	1.5	中 間 階	1.5	1.0	1 階 及 び 地 下 階	1.5
設 置 場 所	○特定の施設			●一般の施設																																			
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																			
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)																																			
中 間 階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)																																			
1 階 及 び 地 下 階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)																																			
設 置 場 所	○特定の施設	○一般の施設																																					
	水 槽	水 槽																																					
上層階、屋上及び塔屋	2.0	1.5																																					
中 間 階	1.5	1.0																																					
1 階 及 び 地 下 階	1.5	1.0																																					
通	○一般用弁	標準仕様書第2編2.2.1(ア)～(シ)によるほか、下記による。 1) 水道直結部及び図面特記部の耐圧は10K以上、その他は5K以上とする。 2) 給水・給湯用の青銅製弁は、給水用青銅弁を使用する。																																					
	○フレキシブルジョイント	機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、鋼板に対してはペローズ形、FRPに対しては合成ゴム製とする。																																					
	○伸縮管継手(銅管用)	銅管用伸縮管継手は下記による。 ○ペローズ形 ○スリープ形																																					
	○滑接接合	滑接部の非破壊検査は、 ○適用しない ○適用する(放射線透過検査 ○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査)																																					
	○地中埋設機及び埋設表示用テープ	1) 給水管 地中埋設機(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要) 2) 消火管 地中埋設機(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要) 3) ガス管 地中埋設機(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要) 4) 油 管 地中埋設機(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要) 5) ブライン管 地中埋設機(○要 ○不要) 埋設表示用テープ(○要 ○不要) 用途表示のあるテープ(幅は150mm以上)で、2倍長以上重ね合わせて使用する。																																					
	○防食処理	土中埋設の排水用塩ビラインング鋼管は、防食処置を行う。																																					
	●保温	1) 保温材の使用は、下記による。 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>給水管・排水管</td><td>●ポリスチレンフォーム保温材</td><td>○</td></tr> <tr> <td>排煙ダクト・煙道・排気筒</td><td>○ロックウール保温材</td><td>○</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>○グラスウール保温材</td><td>●ロックウール保温材</td></tr> </tbody> </table> 2) 膨張管及び膨張水槽からの補給水管の保温は、冷水管に準ずる。 3) 鋼板製タンクの保温 ○必要 ○不要 4) 保温を施す膨張水槽等の蓋の保温 ○必要 ○不要 5) エア抜きの保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜きまでとする。 6) 露出配管の保温外表種別は、下記による。 ○屋内 ○合成樹脂カパー1 ○合成樹脂製カパー2 ●カラー亜鉛鉄板 ○屋外 ●ステンレス鋼板 (つや消し) 7) 弁、ストレーナ等の金属製カパー外表種別は、下記による。 ・屋内 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ ・屋外 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ 8) 車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。 9) 合成樹脂製支持受 ○硬質ウレタフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの	給水管・排水管	●ポリスチレンフォーム保温材	○	排煙ダクト・煙道・排気筒	○ロックウール保温材	○	その他	○グラスウール保温材	●ロックウール保温材																												
給水管・排水管	●ポリスチレンフォーム保温材	○																																					
排煙ダクト・煙道・排気筒	○ロックウール保温材	○																																					
その他	○グラスウール保温材	●ロックウール保温材																																					
●塗装	標準仕様書による他下記の配管は塗装(指定色塗装)を行う。ただし保温を行う配管ダクトを除く ○屋外(○ダクト ●配管) ○屋内PS・EPS(○ダクト ●配管) ○屋内機械室・電気室(○ダクト ●配管)																																						
○吹出口及び吸込口ボックス	ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、ガラス繊維製とする場合はJIS A 4009(空気調和及び換気設備用ダクトの構成部材)によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものとする。 ボックスの厚さは3点支持を標準とし、これによらない場合は監督職員との協議による。																																						
○ステン製ダクトの板厚	ステンレス製ダクトの板厚は JIS A 4009 2017による																																						
項	○ボックス	Pf管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する																																					
	●容量等の表示	機器側の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。																																					
	●誘導電動機	電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、JIS C 4213(低圧三相かご形誘導電動機-低圧トランザンモータ)による。																																					
	○開放形膨張タンク等	開放形膨張タンク、補給水タンク及び消防用充水タンクの材質は次による ○鋼板製 ○ステンレス鋼板製																																					
	○電線及び電線管	電線及び電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による																																					

 足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040	所 長	主 任	担 当	工
				図

項 目		特 記 事 項						
共 通 事 項	● はつり	1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2) 復旧はモルタル補修までとする。						
	● インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第2編第5章による。 施工後確認試験 ● 行う (国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事編) (令和4年度)) による。 ○ 行わない						
	○ 防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー	復帰方式は ○ 遠方復帰式 (電気式 (定格入力 DC24V 0.6A以下)) ○ 手動復帰式						
	○ 消音内貼	ダクト及びチャンパー、消音エルボの内貼り (箇所図示) は下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は ○ 不要 ○ 必要 ・チャンパーの寸法は、外形寸法を示す。 (ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。) ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。						
	○ ドレン抜き	外壁に面するガラリに直接取付けるチャンパー類に必要に応じ設ける。						
	○ 取付枠	防火区画部に取付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。						
	● 機器の基礎	アンカーボルト及びナットは、下記による。 ・屋外、多湿室等 (○ 溶融亜鉛メッキ ● SUS) ビット内 ・その他 (○ 一般品) ● 機器側の材質が SUS 製の場合は、SUS 製とする。						
	● 防火区画	● 平面階 ○ 図示						
	● 掲示板	機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図などを画いた掲示板を設ける。						
	○ 天井仕上区分	() 書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。						
	○ 給油設備	地下オイルタンク ○ 設ける ○ 設けない 遠隔油量指示計 ○ 設ける ○ 設けない 副指示計 ○ 設ける ○ 設けない オイルサーピスタック 油面計 ○ ゲージ式 ○ ガラス管式 油面制御装置の機能は下記による。 ○ 給油ポンプの起動、停止制御用 ○ 返油ポンプの起動、停止制御用 ○ 満油警報 ○ 遠隔警報 (○ 減油 ○ 満減油) 油管 (露出、トラフ内) ○ 配管用炭素鋼管 (黒) ○ 油管 (地中) ○ ポリエチレン被覆鋼管 ○						
	○ 建物導入部配管 (排気及び通気を除く)	○ 標準図 施工 4 (a) (フルキア®ジョイントを使用) ○ 標準図 施工 5 (b) (フルジョイントを使用) ○ 標準図 施工 5 (c) (スリクッションを使用)						
	● 鋼材	屋外部分 ○ 溶融亜鉛めっき (○ 2種 35) ● ステンレス鋼製 (SUS 304)						
	○ 制御及び操作盤	構成 ○ 進相コンデンサー ○ 運転時間計 表示等 ○ 運転 (赤色) 及び停止 (緑色) 表示 ○ 保護継電器の動作表示 接点及び端子 ○ 遠方発停用端子 ○ 湿度調節器用端子 ○ 運転時間表示用端子 ○ 温水出入口温度用端子 ○ 冷水出入口温度用端子 ○ 消費電力表示用端子 (ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用) ○ 給水量表示用端子 (ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用) ○ 燃料消費量表示用端子 (ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用)						
	空	● 主方式	○ 全空気方式 (○ 中央 ○ ファンコイル・ダクト併用方式 ● 個別方式) ○					
		● 主要熱源機器	○ 吸収冷水機 ○ チリングユニット ○ 空気熱源ヒートポンプユニット ● 空冷ヒートポンプ式パッケージ形空気調和機 (● EHP ● GHP ● PAC) ○					
気	○ 設計時の温湿度条件	場 所 屋 外		屋内 (調整目標値)				
	時 期	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	
	冬 期	0.4	67.2 %	19.0	40 %		%	
	夏 期	36.3	44.3 %	28.0	45 %		%	
調 和 設 備	○ 長方形ダクトの工法	○ アングルフランジ工法 ○ コーナールボルト工法 (○ 共板フランジ工法 ○ スライドオンフランジ工法)						
	○ ダクトの分岐方法	○ 割込み工法 ○ 直付け工法						
	● 配管材料 (図面特記部分は除く)	冷水水管	○ 配管用炭素鋼管 (白) ○					
	○ 配管材料 (図面特記部分は除く)	冷却水管	○ 配管用炭素鋼管 (白) ○ 塩化ビニル管 (SGP-VA、SGP-FVA)					
		空調用排水管	○ 配管用炭素鋼管 (○ のねじ接合 ○ MDジョイントによる接合) ○ 水配管用亜鉛めっき鋼管 ○ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ● ビニル管 (VP) ● 保温付VP管					
		補給水管	○ 配管用炭素鋼管 (白) ○					
		膨張管	○ 配管用炭素鋼管 (白) ○					
		エア抜き管	○ 配管用炭素鋼管 (白) ○					
	● 冷媒管接続方法	○ 銅管 ● 断熱材被覆銅管 (ガス管: ハイグレード仕様) ● パッケージ形空気調和機の2次側電気配管配線の仕様は製造者の標準仕様とする。						
		○ 火無工法とする。(ファイヤーレスジョイント使用)						
設 備	○ 温度計	○ 工業用バイメタル式温度計 ○ 工業用棒状温度計 ○ ガラス製二重管温度計						
	○ 定風量ユニット	○ メカニカルタイプ						
	○ 変風量ユニット	○ 風速センサータイプ (○ プロペラ形センサー ○ 熱線センサー)						
	○ ファンコイルユニット	風量分配ダクトは ○ 亜鉛鉄板製 ○ 自己消火性のポリスチレンフォームなど						
	○ 形状形ファコイルユニット	○ 亜鉛鉄板製 ○ 自己消火性のポリスチレンフォームなど						
	○ パーナー制御方式	○ オン・オフ制御 ○ ハイ・ロー制御 ○ 比例制御						
	○ 電動機盤	○ 進相コンデンサー (○ 要 ○ 不要)						
	○ 排熱投入形再生器	直置き吸収冷水機に (○ 要する。 ○ 不要である。)						
	○ 高温再生器の構造	図面による。						
	○ ユニティ装置	発電方式	○ 原動機、発電機	○ 燃料電池				
設 備	○ 熱回収装置	○ 温水熱交換機	○ 排ガスボイラー	○ 排ガス熱交換機				
	○ 熱回収ポンプ	○ その他						
	○ その他装置等	○ 補機付属制御装置	○ 冷却塔 (放熱用)	○				
	● 集中リモコン	表示機能	○ 屋外機吸込温度	○ 空調エネルギー使用量按分	○ 運転時間積算			
		データ管理機能	○ 室内温度	● DCL401B1同等品				
			○ 屋外機吸込温度	○ 空調エネルギー使用量按分	○ 運転時間積算			
			○ 室内温度	● DCL401B1同等品				
	○ 外部記憶媒体への出力							

名	宇治市産業振興センター改修機械工事（その２）	縮尺	SHEET	年
名	機械設備工事 特記仕様書-1		M-01	R

機械設備工事特記仕様書 No 2

項 目		特 記 事 項											
空 気 調 和 設 備	○鋼板製煙道	厚さ ○ 3 . 2 mm ○ 4 . 5 mm ○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口 ○伸縮継手 ○掃除口											
	○ばい煙濃度計	○ファン付 ○ファンなし (電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む)											
	○瞬間流量計	○固定形 個 個 本体 個) ○着脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個)											
	●保温 (図面特記部分は除く)	1)冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠ぺい部 ●不要 ○必要 露 出 部 ○保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) ● カラー亜鉛鉄板 ・屋外 ●ステンレス鋼板 (つや消し) ●保温化粧ケース (○樹脂製 ○アルミ合金製 ・保温化粧ケースの下部カバー ●必要 ○不要 2)ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3)加圧用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4)トラフ内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。											
	●ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法(○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法) ●スパイラルダクト ●アルミフレキシブルダクト 保温共											
換 気 設 備	○ダクトの分岐方法	給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式											
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。 <table><tr><th>ダ ク ト の 長 辺</th><th>板 厚</th></tr><tr><td>4 5 0 mm以下</td><td>0 . 6 mm</td></tr><tr><td>4 5 0 mmを超え1 2 0 0 mm以下</td><td>0 . 8 mm</td></tr><tr><td>1 2 0 0 mmを超え1 8 0 0 mm以下</td><td>1 . 0 mm</td></tr><tr><td>1 8 0 0 mmを超えるもの</td><td>1 . 2 mm</td></tr></table>		ダ ク ト の 長 辺	板 厚	4 5 0 mm以下	0 . 6 mm	4 5 0 mmを超え1 2 0 0 mm以下	0 . 8 mm	1 2 0 0 mmを超え1 8 0 0 mm以下	1 . 0 mm	1 8 0 0 mmを超えるもの	1 . 2 mm
	ダ ク ト の 長 辺	板 厚											
	4 5 0 mm以下	0 . 6 mm											
	4 5 0 mmを超え1 2 0 0 mm以下	0 . 8 mm											
1 2 0 0 mmを超え1 8 0 0 mm以下	1 . 0 mm												
1 8 0 0 mmを超えるもの	1 . 2 mm												
○排気フード	1)排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ○ステンレス鋼板(補強共) ○亜鉛鉄板 2)排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事 ○別途工事 3)グリスフィルターの予備 ○不要 ○必要												
●保 温	浴室・厨房(多湿箇所)の外気取入ダクトの保温 ○不要 ○必要 外気取入ダクトの保温(空調を行っている室について) ○不要 ●必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温(空調を行っている室について) ○不要 ●必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温(空調を行っている室について) ●不要 ○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。												
排 煙 設 備	○排煙対象部分	○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m ²											
	○ダクトの種類	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト											
	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法											
	○ダクトの材料	○亜鉛鉄板製 ○普通鋼板製											
	○排煙口	1)形・寸法 ○スリットフェース形 ○バネル形 ○ダンパー形 2)排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3)復帰装置 ○手元復帰式(○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式 4)ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。											
○保温	床下及び暗渠内の保温 ○不要 ○必要(図示) 図面による。												
衛 生 器 具 設 備	○小便器用節水装置	電気供給方式	○ＡＣ電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池										
	○自動水栓	電気供給方式	○ＡＣ電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池										
	○大便器用洗浄弁	手動スイッチ	○無し ○有り										
	○水石けん入れ	操作方式	○手動式 ○電気開閉式 (○センサー式 ○タッチスイッチ式)										
	○身障者用器具	○手洗器一体型 ○手洗器分離型 ○	1)大便器洗浄弁 ○センサー式 ○タッチスイッチ式 ○レバー式 2)洗面器の水栓は自動水栓とする。										
給 水 設 備	●給水方式	●水道直結方式 ○高置タンク方式 ○増圧ポンプ方式(水道用直結加圧形ポンプユニット) ○ポンプ直送方式(給水ポンプユニット)											
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管	○ステンレス鋼管(ＳＵＳ304) (呼び径60Ｓu以下は拡管式、呼び径75Ｓu以上は溶接接合) ○ビニル管(ＨＩＶＰ) ●ポリ粉体ライニング鋼管(ＳＧＰ-ＰＢ、ＳＧＰ-ＦＰＢ) ○塩ビライニング鋼管(ＳＧＰ-ＶＡ、ＳＧＰ-ＦＶＡ) ○保温付き(保護材)ポリブデン管										
		地中配管〔屋内〕	○ステンレス鋼管(ＳＵＳ316) (呼び径60Ｓu以下は拡管式、呼び径75Ｓu以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管(50φ以下)(2種 ○1種) (ポリエチレン管の接合方法は ○電気融着 ○メカニカル) ○ビニル管(ＨＩＶＰ) ○ポリ粉体ライニング鋼管(ＳＧＰ-ＰＤ、ＳＧＰ-ＦＰＤ) ○塩ビライニング鋼管(ＳＧＰ-ＶＤ、ＳＧＰ-ＦＶＤ) ○										
		浴室、便所配管 コンクリート埋設配管	○ステンレス鋼管(ＳＵＳ316) (呼び径60Ｓu以下は拡管式、呼び径75Ｓu以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管(50φ以下)(2種 ○1種) ○ビニル管(ＨＩＶＰ) ○ポリ粉体ライニング鋼管(ＳＧＰ-ＰＤ、ＳＧＰ-ＦＰＤ) ○塩ビライニング鋼管(ＳＧＰ-ＶＤ、ＳＧＰ-ＦＶＤ) ○保温付き(保護材)ポリブデン管										
	○緊急遮断弁装置	○要 ○不要 駆動方式	○電気式 ○機械式										
○量水器	○現地表示式(直読式) ○遠隔表示式												

章	項 目	特 記 事 項
給 水 設 備	○水栓柱	○合成樹脂製 (70×70×1300H) ○ステンレス製 () ○アルミニウム合金製() 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。
	○管の埋設深さ	1)一般敷地 ○300mm 2)構内車両通路 ○600mm 3)寒冷地では凍結深度以上とする。
	○加入金・負担金	○不要 ○必要(○別途 ○本工事)
	○本管引込工事	○本工事 ○別途工事
排 水 設 備	○排水方式	汚水と雑排水 [屋内] ○分流式 ○合流式 汚水・雑排水と雨水[屋外] ○分流式 ○合流式 ポンプ排水 ○有り(○雑排水 ○汚水 ○雨水 ○湧水 ○浄化槽2次側) ○なし
	○放流式	汚水 ○直放流下水管 ○浄化槽 ○ 雑排水 ○直放流下水管 ○浄化槽 ○別途樹・側溝 雨水ポンプアップ ○直放流下水管 ○雨水側溝 ○雨水樹 湧水ポンプアップ ○直放流下水管 ○雨水側溝 ○雨水樹
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 (D-V A) ○鋼管(ＳＧＰＷ)(○ねじ接合 ○ＭＤジョイントによる接合) ○ビニル管(ＶＰ) ○耐火二層管 ○ 屋外汚水排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 (D-V A) ○ビニル管(ＶＰ) ○ＲＦ-ＶＰ ○耐火二層管 ○
	○通気管	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(ＲＦ-ＶＰ) ○鋼管(ＳＧＰＷ)(○ねじ接合 ○ＭＤジョイントによる接合) ○ビニル管(ＶＰ) ○耐火二層管 ○
給 湯 設 備	○地中配管〔屋内〕	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(ＲＥＰ-ＶＵ) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(ＲＳ-ＶＵ) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(ＲＦ-ＶＰ) ○ビニル管(ＶＰ) ○ビニル管(ＶＵ) ○
	○地中配管〔屋外〕	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(ＲＥＰ-ＶＵ) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(ＲＳ-ＶＵ) ○ビニル管(ＶＰ) ○ビニル管(ＶＵ) ○コンクリート管
	○鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管(ＳＧＰ-ＶＡ、ＳＧＰ-ＦＶＡ)(地中配管はＳＧＰ-ＶＤ、ＳＧＰ-ＦＶＤ)とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。	
	○必要(図示箇所に取付ける) ○不要	
消 火 設 備	○満水試験継手	○必要(図示箇所に取付ける) ○不要
	○負担金	○不要 ○必要(○別途 ○本工事)
	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事
	○給湯方式	○中央式 ○局部式 ガス湯沸器
給 湯 設 備	○配管材料	○鋼管(壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。) ○ステンレス鋼管 圧縮・プレス接合 ○耐熱性塩ビライニング鋼管 ○保温付き(保護材)ポリブデン管 ○架構ポリエチレン管
	○保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2、3、5による。
	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火() ○連結送水管 ○
	○表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。
消 火 設 備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○配管用炭素鋼管(白) ○圧力配管用炭素鋼管(白) 地中配管 ○消火用ポリエチレン管(ＰＥ) 屋内外地中配管 ○外面被覆鋼管(ＳＧＰ-ＶＳ) ○消火用ポリエチレン管
	○保温	消火用充水タンクの保温を ○施工する(膨張タンクによる) ○施工しない 消火用呼水タンクの保温を ○施工しない ○施工する(膨張タンクによる) 屋外露出管の保温を ○施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる) 屋内露出管の保温を ○施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる) トレンチ内の保温を ○施工しない ○施工する(給水管の保温仕様に準ずる)
	●ガスの種類	●都市ガス (発熱量 ●45,000kJ/N m ³ ○ KJ/N m ³) ○液化石油ガス (○50kg 本立 ○20kg 本立)
	●ガスメーター 既設	親メーター ○貸与品 ○購入 注記 既設屋上階 GHP屋外機撤去に伴う配管の撤去を施工する。(本工事)
ガ ス 設 備	●配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ●配管用炭素鋼管(白) 塗装共(3回塗) ○ 屋内外地中配管 ○ポリエチレン被覆鋼管 ○ガス用ポリエチレン管 ○ 都市ガスの場合は、供給者仕様による。 大阪ガスネットワーク
	○地中埋設管の接合法	○ＳＧＭ工法 ○ネジ工法 ○ＰＥ管工法
	○ビット内施工法	○溶接工法
	○負担金	○不要 ○必要(○別途 ○本工事)
設 備	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事
	○掘削工法	○パーカッション式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式
	○孔口保護管	深さ () m
	○ケーシング材質	○配管用炭素鋼管(黒管) ○配管用ステンレス鋼鋼管

そ の 他	●コア抜き (グイドリル穴明け)	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 参考メーカー 日本無機機 ハンディサーチＲＣレーダー N J J - 1 0 5 型同等品
	●校正記録	試験機器類の校正記録を提出する。
	●交通誘導員	機器類搬入時、撤去材搬出時、外部掘削時に配置する。
	○保安器材	カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
	●鉄板敷き	1,524×6,096×厚22mm
	●アンカーボルト	屋上階機器類設置はケミカルアンカーを使用する。
そ の 他	●文字標識	

別表 付属品・予備品

○工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スバー、ハンマー)	○ポンプブライヤー	○ラバーカップ(大、小)
○マンホールフック	○パイプレンチ	○キーボックス
○イージーキャビネット	箱	
○盤類予備品(ランプ及びヒューズの100%)		

試験・検査

●水圧試験	○排水満水試験	●排水通水試験	●風量測定	●吹出口温度測定
●気密試験	●点火試験	●機器類動作試験		
●騒音測定	○振動測定	●絶縁試験		
○消防設備試験	○水質検査	○水槽水張り試験	●アンカー引張試験	

特記事項

種目	項 目	特 記 事 項
共 通 用 項 目	●エアフィルタの予備	EHP、GHP屋内機 ●必要(現用数と同数とする)
	●リモコンスイッチ	○ワイヤレスリモコンスイッチを使用する。 ●ワイヤードリモコンスイッチとする。
	●工事完成後の試運転 及び点検	1)工事完成時の試運転調整以外に、工事完成後の最初の冷房時期 及び暖房時期には 試運転調整及び点検、各室温度測定を行う。 2)各種試験(吹出口風量測定・吹出口温度測定・騒音測定(A特性) ・絶縁試験等)を行い、データを整理、提出する。
	●アンカ・ボルトの 引っ張り強度試験	1)室内機用に雄ネジアンカ・等を使用する場合は、引っ張り強度試験を行う。 2)廊下、室内天井冷媒、ドレン管用に雌、雄ネジアンカ・等を使用する場合は、 引っ張り強度試験を行う。 3)室外機用は接着系アンカ・を使用し、引っ張り強度試験を行う。 4)試験本数はその日打設した本数の3%以上かつ3本以上とする。
	●保温	本特記標準図及び標準仕様書の当該事項による。 ただし、下記の部分のみ本仕様とする。 ●冷媒配管の屋外露出保温は、ステンレス鋼板巻きとする。 ●冷媒配管の屋内露出保温は、カラ・鋼板巻きとする。
	●既設空調機冷媒回収	●冷媒回収、破壊処理を行う。(回収認定技術者による。)

足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040				所 長	主 任	担 当	工 事 名	宇治市産業振興センター改修機械工事(その2)	縮尺	SHEET	年 月 日
							図 面 名	機械設備工事 特記仕様書-2		M-02	R7.03

凡 例

記 号	名 称											備 考
		S G P (白)	V P	保温付 - V P		C U P - L		S G P - P B			大阪ガス仕様	
—— R ——	冷 媒 管 国土交通省仕様					●						
—— D ——	ド レ ン 管 (屋外立管、屋外露出部分)		●									屋外は カラ - V P
—— D ——	ド レ ン 管 (室内露出、化粧加` - 内部分)			●								
—— - ——	給 水 管 (一般、露出部分)							●				
—— G ——	ガ ス 管 (一般、露出部分)	●									●	塗装仕上
⊗	壁付換気扇											
⊠	雑排水樹 雨水樹											

製造業者指定

NO	品 目	製 造 者 名 簿		
1	ガスエアコン	アイシン精機 (株)	パナソニック (株)	ダイキン工業㈱
		ヤンマ - エネルギ - システム㈱	三菱重工冷熱 (株)	
2	電気エアコン・全熱交換機	三菱電機 (株)	パナソニック (株)	ダイキン工業㈱
		日立アプライアンス (株)	三菱重工冷熱 (株)	
3	保温付硬質塩化ビニル管	積水化学工業㈱	A C D 型	因幡電工㈱ N D D 型
4	屋内機用化粧パネル	ダイキン工業㈱	㈱シモヤマ	

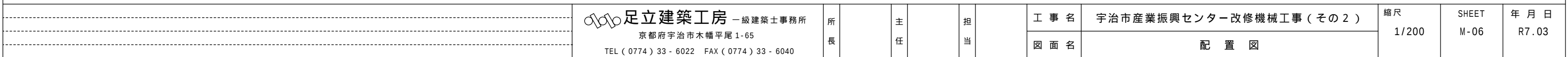
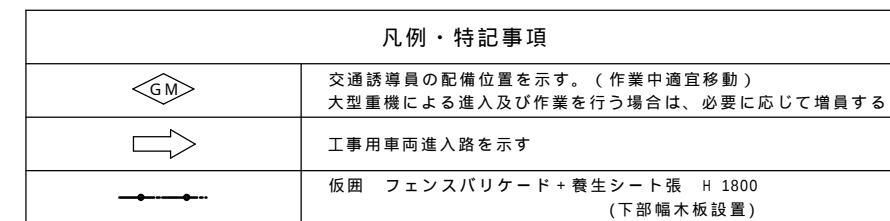
参考型番	GHP-850	EHP-560	ハ` ッケー` - 140
	GXUBP850GA	RQYP560FCR	SZRG140BY

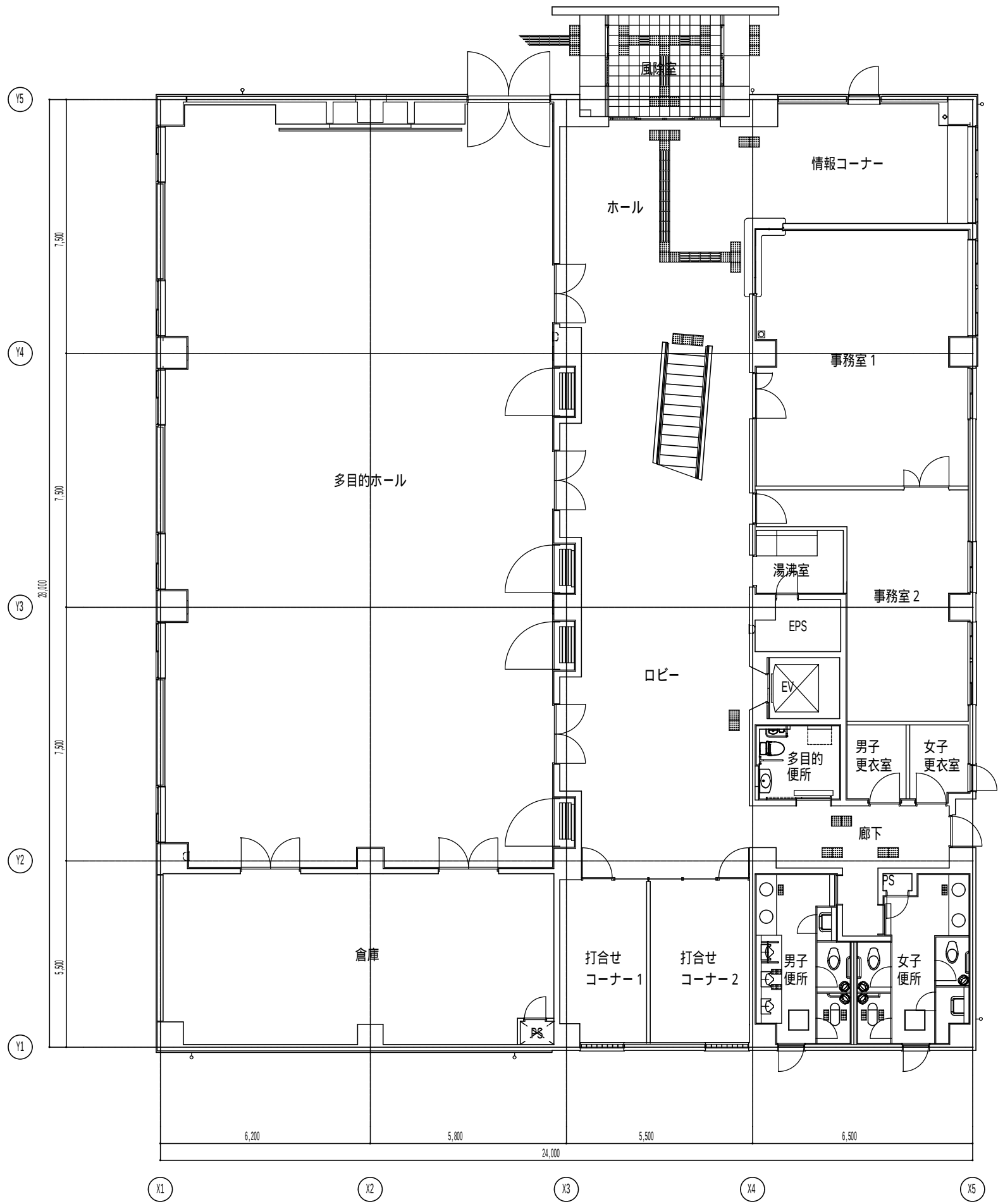
1) 上表中 ● 印を適用する	
2) 管材は下記の通りとする	
C U P - L	リン脱酸銅継目無銅管 (空調用断熱被覆銅管)
S G P (白)	配管用炭素鋼鋼管
V P	硬質塩化ビニル管
保温付 - V P	保温付硬質塩化ビニル管
S G P - P B	水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管

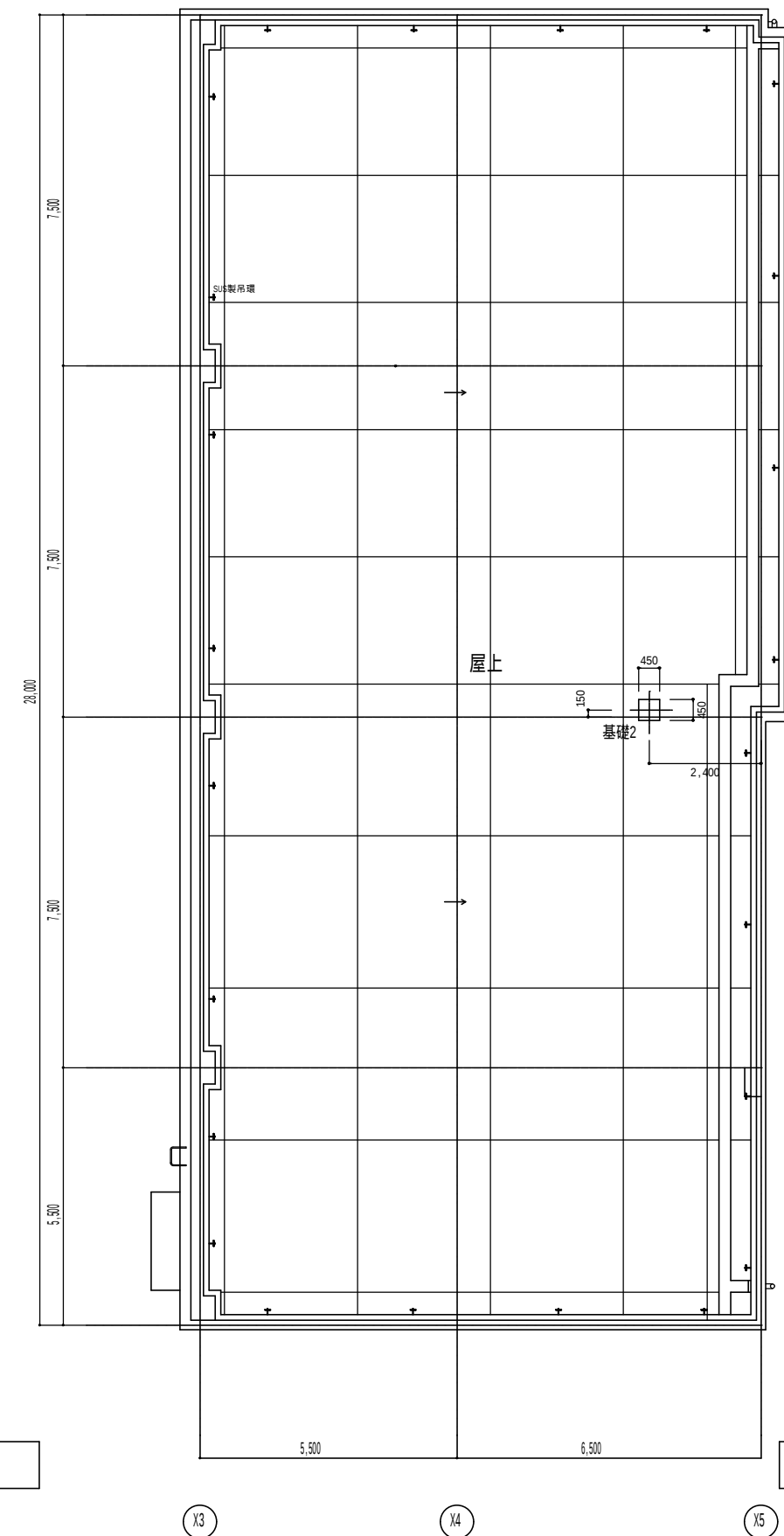
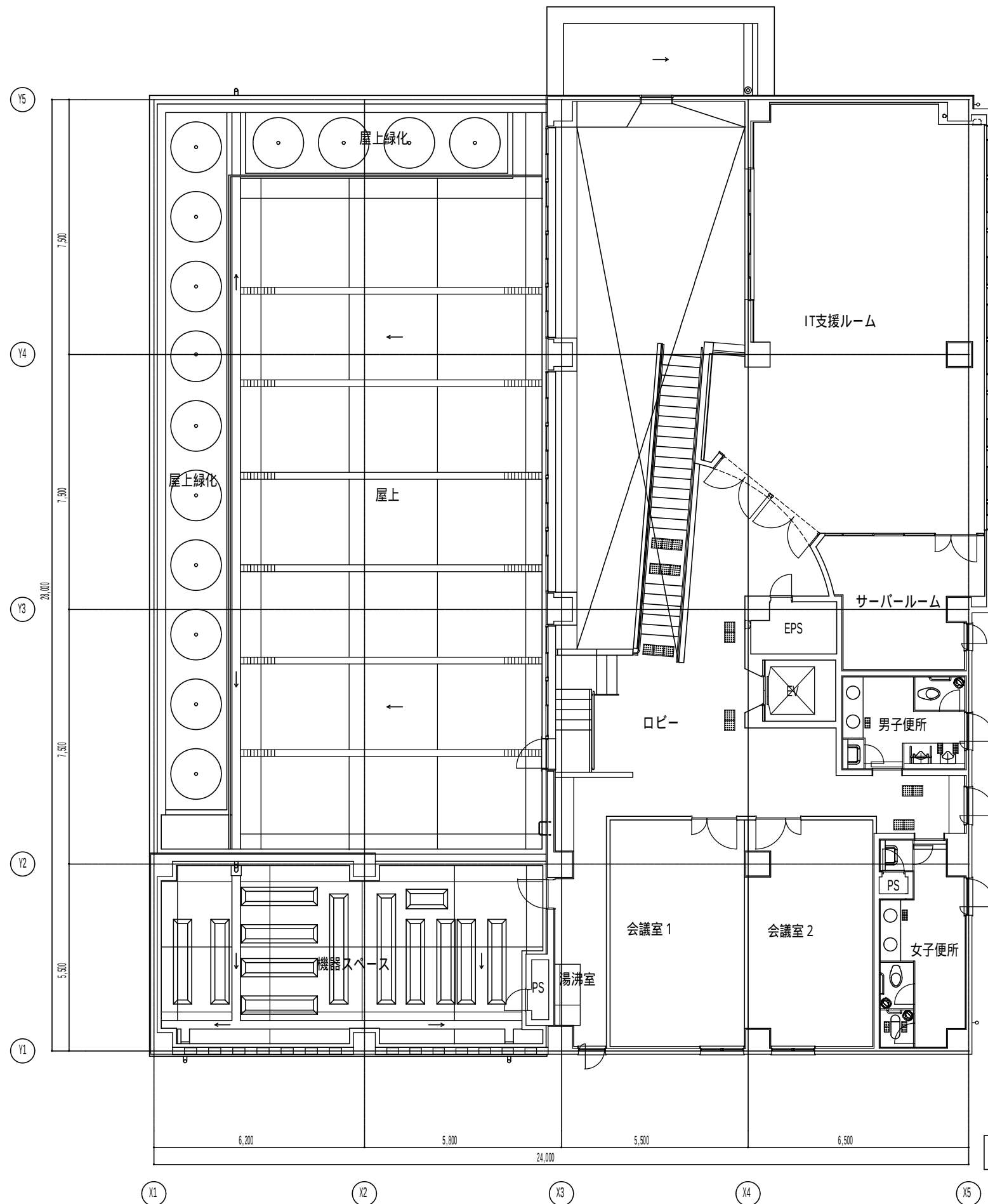


				所 長	主 任	担 当	工 事 名	宇治市産業振興センター改修機械工事（その２）	縮 尺 1/2500	SHEET M-05	年 月 日 R7.03
							図 面 名	付近見取図			

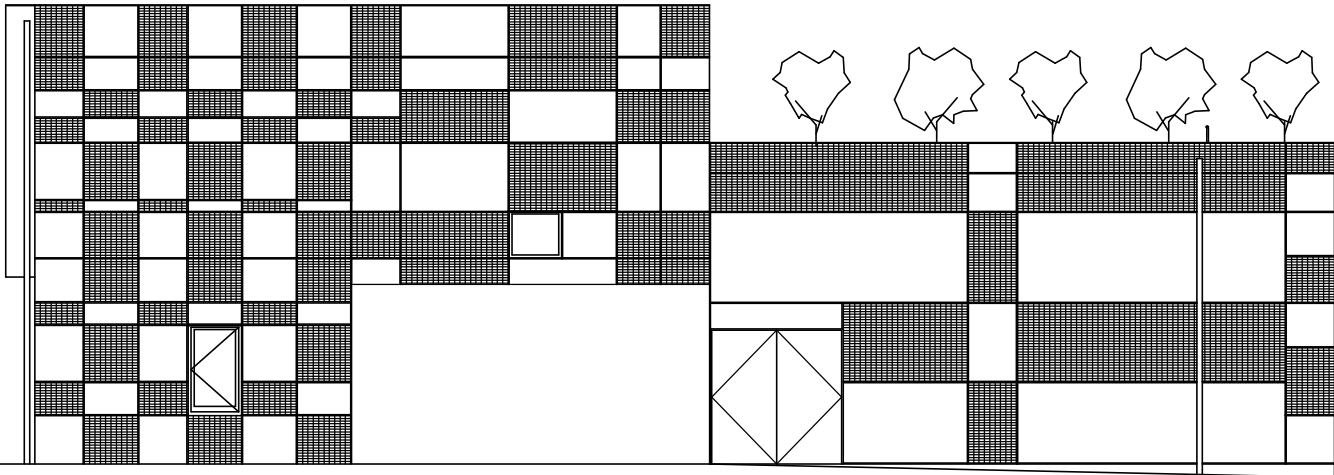
 **足立建築工房** 一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾1-65
TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040



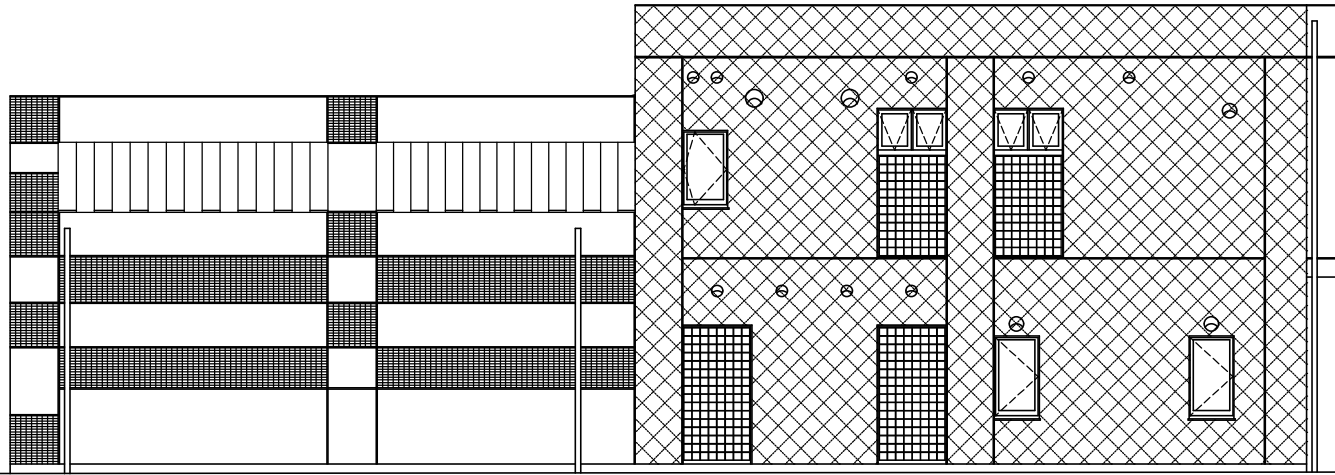




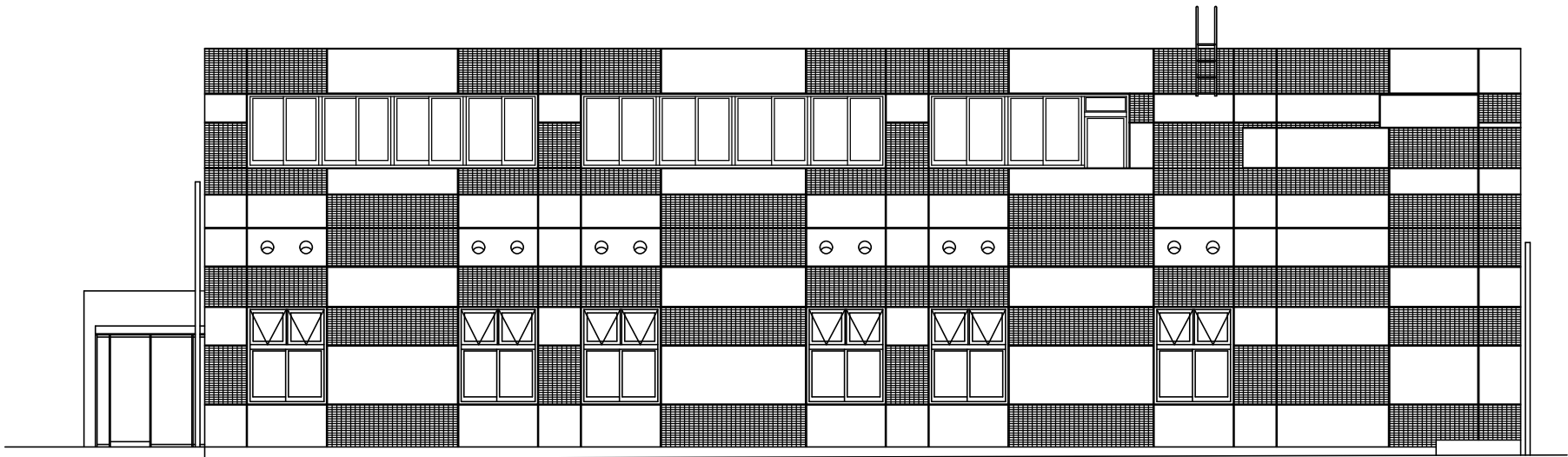
		所 長		主 任		担 当	工 事 名	宇治市産業振興センター改修機械工事（その２）	縮尺	SHEET	年 月 日
							図 面 名	支援施設棟 ２階平面図	1/100	M-08	R7.03



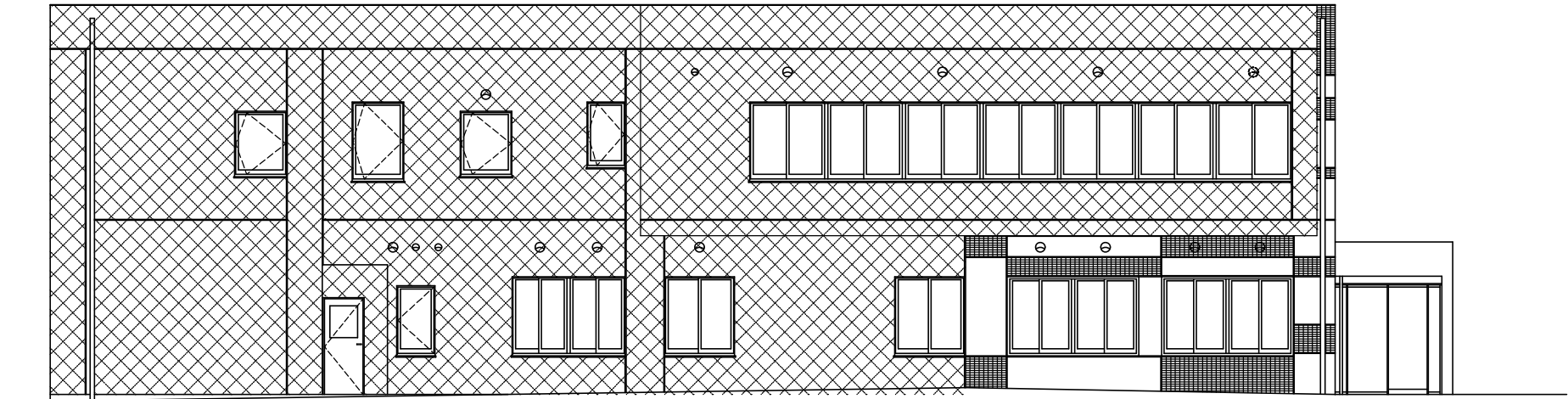
北立面図 S=1/100



南立面図 S=1/100



西立面図 S=1/100



東立面図 S=1/100

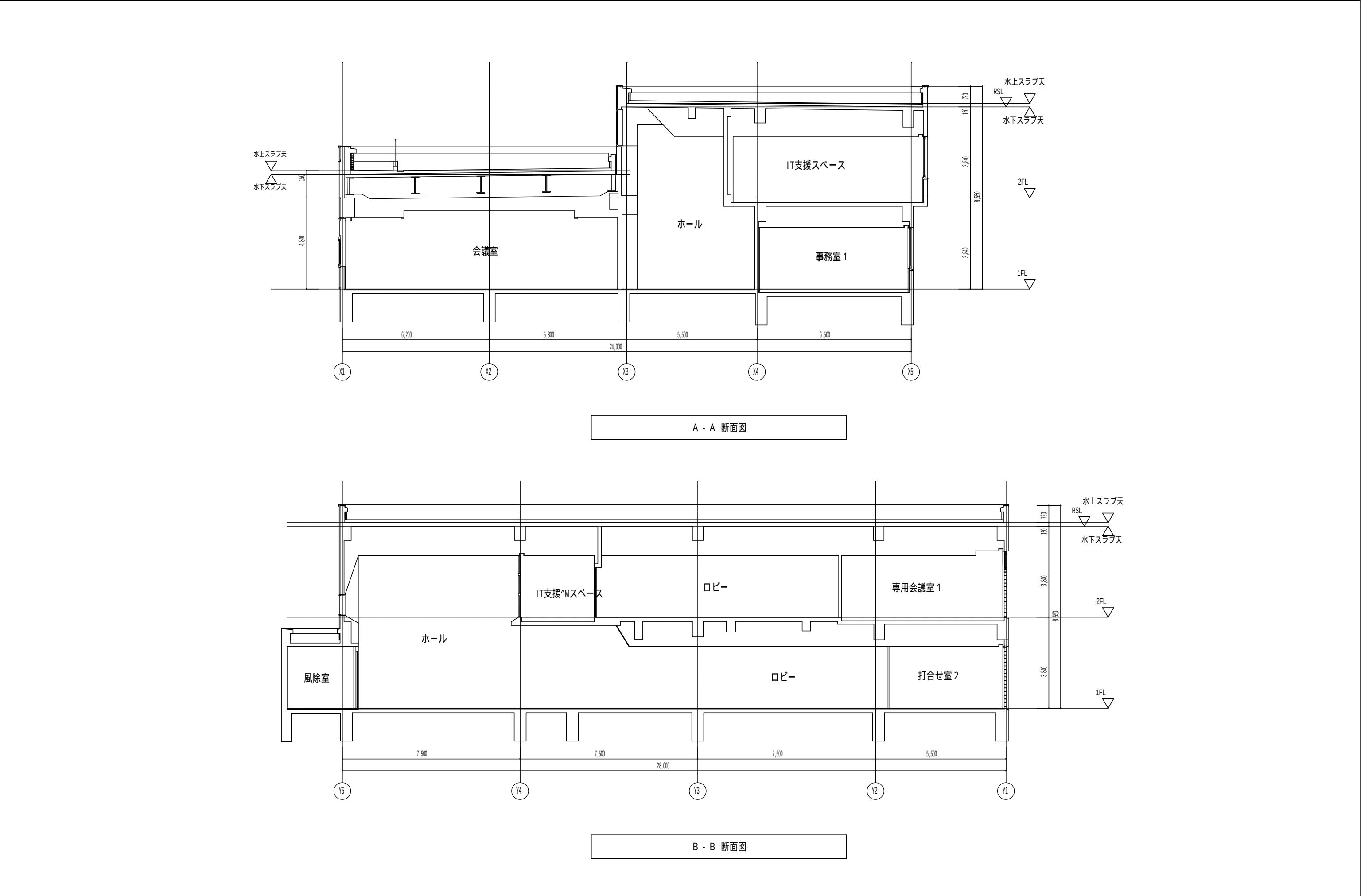
				所 長	主 任	担 当	工 事 名	宇治市産業振興センター改修機械工事（その２）	縮尺 1/100	SHEET M-09	年 月 日 R7.03			
							図 面 名	支援施設棟 立面図						

足立建築工房

一級建築士事務所

京都府宇治市木幡平尾 1-65

TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040



足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾1-65 TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040				所 長	主 任	担 当	工 事 名	宇治市産業振興センター改修機械工事（その2）	縮尺 1/100	SHEET M-10	年 月 日 R7.03
							図 面 名	支援施設棟 断面図			

機器表

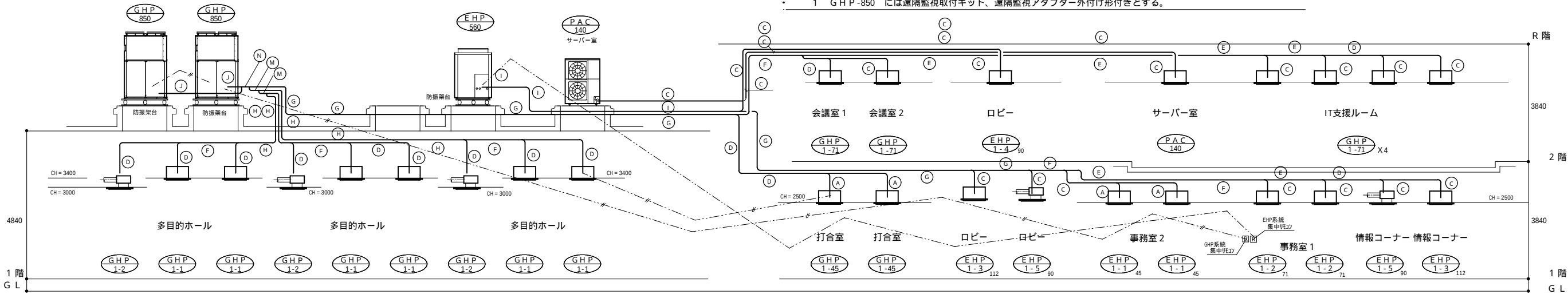
記 号	名 称	型 式	冷房能力 (KW)	暖房能力 (KW)	圧縮電動機 (KW)	送風電動機 (KW)	電 源 (φ V)	消費電力(W)		本体寸法(mm) W×D×H	製 品 重 量 (kg)	冷媒管 (m/m)	風量 m3/min	燃料 (KW) 冷房	燃料 (KW) 暖房	台数	設 置 場 所	備 考 参考品番
								冷房	暖房									
GHP 850	ガスエンジン	パッケ - ジェアコン ビルマルチ型 室外機 2基 連結	85.0	95.0		0.67+0.76	3 φ ×200	1780	1660	1660 880 2195	745	31.8 19.05		80.1 13 A	80.2 13 A	2	屋上機械置場	パネ式防振架台共 集中用 (EHP兼用) DCL401B1
GHP 1-1	ガスエンジン	パッケ - ジェアコン 天井カセット型 屋内機 2方向吹出	14.0	16.0		0.106×2	1φ ×200V	149	146	1445 620 305	38+13	15.88 9.52	22.5, 27.5 32.0			6	1階 多目的ホール	遠隔監視アダプター ケミカルアンカー M-12 ×4本 EHP 1-1 共 標準ドレン 2φ 共 FGXCP140EA
GHP 1-2	ガスエンジン	パッケ - ジェアコン 天井ビルトイン型 屋内機	11.2	12.5		0.30	1φ ×200V	154	148	1400 800 245	47	15.88 9.52	22.5, 27.5 32.0			3	1階 多目的ホール	ワイード用 (BRC1G5) 吸込フル 共 FGXSP112EB 標準ドレン 2φ 共
GHP 1-45	ガスエンジン	パッケ - ジェアコン 天井カセット型 屋内機 2方向吹出	4.5	5.0		0.047	1φ ×200V	0.041	0.047	775 620 305	20.0+10.0	12.7 6.35	12.0, 10.5 8.5			2	1階 打合せ室2室	ワイード用 (BRC1G5) EHP 1-45 共 FGXCP45EA 標準ドレン 2φ 共
GHP 1-71	ガスエンジン	パッケ - ジェアコン 天井カセット型 屋内機 2方向吹出	7.1	8.0		0.106	1φ ×200V	0.063	0.060	990 620 305	26.0+11.0	15.88 9.52	16.0, 14.0 11.5			4	2階 支援ルーム	標準ドレン 2φ 共 ワイード用 (BRC1G5)
																2	会議室 1, 2	ワイード用 (BRC1G5) FGXCP71EA EHP 1-71 共
EHP 560	電気	パッケ - ジェアコン ビルマルチ型 室外機	56.0	63.0	7.40+7.40	0.46×2	3φ ×200V	18.0	17.1	(920 740 1650) X2	197+197	38.1 15.88		30 A		1	屋上機械置場	集中用 (GHP兼用) DCL401B1 RQYP560FCR
EHP 1-1	電気	パッケ - ジェアコン 天井カセット型 屋内機 2方向吹出	4.5	5.0		0.05	1φ ×200V	0.04	0.04	770 650 290	21.0+7.0	12.7 6.35	10.5, 9.5 8.5, 7.0			2	事務室 2	標準ドレン 2φ 共 FXYP45EB ワイード用 (BRC1G5)
EHP 1-2	電気	パッケ - ジェアコン 天井カセット型 屋内機 2方向吹出	7.1	8.0		0.05	1φ ×200V	0.05	0.05	950 650 290	26.0+8.0	15.88 9.52	16.5, 15.0 12.5, 10.5			2	事務室 1	EHP 1-2 共 FXYP71EB ワイード用 (BRC1G5)
EHP 1-3	電気	パッケ - ジェアコン 天井カセット型 屋内機 2方向吹出	11.2	12.5		0.50	1φ ×200V	0.10	0.10	1440 650 331	45.0+11.5	15.88 9.52	26.0, 23.5 20.0, 18.0			1	1階 ロビー	標準ドレン 2φ 共 EHP 1-3 共 情報コーナー ワイード用 (BRC1G5)
EHP 1-4	電気	パッケ - ジェアコン 天井カセット型 屋内機 4方向吹出	9.0	10.0		0.50	1φ ×200V	0.05	0.05	840 840 298	21.0+4.5	15.88 9.52	25.0, 21.0 17.0, 14.0			1	2階 ロビー	標準ドレン 2φ 共 FXYP90NB ワイード用 (BRC1G5)
EHP 1-5	電気	パッケ - ジェアコン 天井ビルトイン型 屋内機	9.0	10.0		0.121	1φ ×200V	0.19	0.17	1100 701 275	33.0	15.88 9.52	22.0, 18.0 13.0			1	1階 ロビー	標準ドレン 2φ 共 吸込フル 共 情報コーナー ワイード用 (BRC1G5)
PAC 140	電気	パッケ - ジェアコン 天井カセット型 屋内機 2方向吹出	12.5	14.0	2.8	0.12X2 0.06X2	3φ ×200V	3.52	3.81	外 1050 330 1338 内 1440 650 331	99	15.88 9.52				1	サーバー室	標準フル パネ式防振架台共 SZRG140BY 既設冷媒配管 取り換え ワイード用 (BRC1G5)
																		ケミカルアンカー M-12 ×4本

ケミカルアンカー		
呼び径	L(mm)	穿孔径(mm) φ2
M-10	80	13.5
M-12	90	14.5
M-16	110	20.0
M-20	120	24.0

冷媒配管サイズ表

記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
A	12.7	6.35
B	12.7	9.52
C	15.88	9.52
D	19.05	9.52
E	22.2	9.52
F	28.6	12.7
G	28.6	15.88
H	31.8	15.88
I	38.1	15.88
J	31.8	19.05
K	41.3+25.4	19.05
L	38.1	
M	38.1	19.05
N	44.5	22.2

- 注記 1 GHP 1-2、EHP 1-5 天井ビルトイン型は吸込パネル用キャンパス、吸込フルパネル、吹出口アダプター共
1 フィルタ - の予備は室内機器と同数を納品する。
1 GHP-850 には遠隔監視取付キット、遠隔監視アダプター外付け形付きとする。



注記 室内外機 - リモコン間の配管・配線については、別途工事（電気設備）

新設 系統図

撤去 機器表

記 号	名 称	型 式	冷房能力 (KW)	暖房能力 (KW)	圧縮電動機 (KW)	送風電動機 (KW)	電 源 (φ V)	消費電力 (KW)		本体寸法 (mm) W × D × H	製 品 重量 (kg)	冷媒管 (m / m)	風量 m3 / min	燃料 (KW) 冷房	燃料 (KW) 暖房	台数	設 置 場 所	備 考 既設品番
								冷房	暖房									
GHP 1	既設ガスエンジン	パッケ - ジェアコン	35.5	42.5			3 φ × 200	0.08	0.08	1735 1000 2208	915	31.75 15.88		31.9		3	屋上機械置場	S G P - H 3 5 5 J 2 G Z 型
	ビルマルチ型	室外機										H		都市ガス				
														13A				
GHP 1-1	既設ガスエンジン	パッケ - ジェアコン	14.0	17.0			1 φ × 200V	0.255	0.216	1630 600 350	56	19.05 9.52				6	1 階多目的ホール	
	天井カセット型	屋内機 2 方向吹出								パ 機 1850 X 680		D						
GHP 1-2	既設ガスエンジン	パッケ - ジェアコン	11.2	13.2			1 φ × 200V	0.260	0.257	1480 630 310	57	19.05 9.52				3	1 階多目的ホール	
	天井ビルトイン型	屋内機								パ 機 1652 X 490		D						
EHP 1	既設電気氷蓄熱	パッケ - ジェアコン	56.0	45.0	7.5	0.5 × 4	3 φ × 200V	15.8	14.9	1990 910 1715	490	38.1 15.88				1	屋上機械置場	P U H Y - P 5 6 0 I M - B 型
	ビルマルチ型	室外機										I						
	既設氷蓄熱水槽		蓄熱容量	976MJ (S)	蓄熱容量	541MJ (W)				2358 1132 1910	運転 3430	31.75 15.88				1	屋上機械置場	
	ビルマルチ型	室外機用										H						
EHP 1-1	既設電気氷蓄熱	パッケ - ジェアコン	4.5	4.9			1 φ × 200V				30	12.7 6.35				3	事務室 1 , 2	
	天井カセット型	屋内機 2 方向吹出										A						
EHP 1-2	既設電気氷蓄熱	パッケ - ジェアコン	3.6	3.2			1 φ × 200V				30	12.7 6.35				1	事務室 2	
	天井カセット型	屋内機 2 方向吹出										A						
EHP 1-3	既設電気氷蓄熱	パッケ - ジェアコン	9.0	7.8			1 φ × 200V		0.173		40	15.88 9.52				2	1 階 ホール	
	天井ビルトイン型	屋内機										C						
EHP 1-4	既設電気氷蓄熱	パッケ - ジェアコン	9.0	7.8			1 φ × 200V		0.18		40	15.88 9.52				2	1 階 ロビー	
	天井カセット型	屋内機 2 方向吹出										C					情報コーナー	
EHP 1-5	既設電気氷蓄熱	パッケ - ジェアコン	9.0	7.9			1 φ × 200V		0.174		30	15.88 9.52				1	2 階 ロビー	
	天井カセット型	屋内機 4 方向吹出										C						
MAC 1	既設電気	パッケ - ジェアコン	50.0	56.5	6.8+5.3	0.38 × 2	3 φ × 200V	13.61	13.86	1990 810 1840	420	28.58 15.88				1	屋上機械置場	P U H Y - P 5 0 0 M - E 型
	ビルマルチ型	室外機										G						
MAC 1-1	既設電気	パッケ - ジェアコン	4.5	5.0			1 φ × 200V	0.07	0.065		30	12.7 6.35				2	1 階 打合せ室	
	天井カセット型	屋内機 2 方向吹出										A						
MAC 1-2	既設電気	パッケ - ジェアコン	7.1	8.0			1 φ × 200V	0.095	0.090		30	15.88 9.52				6	2 階 専用会議室	
	天井カセット型	屋内機 2 方向吹出										C					I T 支援スペース	
PAC 1	既設電気	パッケ - ジェアコン	12.5	14.0	2.5	0.15	3 φ × 200V	4.4	4.18	外 950 330 1350	113	15.88 9.52				1	サーバー室	M P L Z - P 1 4 0 P C 型
	天井カセット型	屋内機 2 方向吹出								内 1444 624 358		C						

冷媒配管サイズ表

記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
A	12.7	6.35
B	12.7	9.52
C	15.88	9.52
D	19.05	9.52
E	22.2	9.52
F	28.6	12.7
G	28.6	15.88
H	31.8	15.88
I	38.1	15.88
J	31.8	19.05
K	41.3+25.4	19.05
L	38.1	
M	38.1	19.05
N	44.5	22.2



足立建築工房 一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾 1-65
TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040

所
長

主
任

担
当

工 事 名
図 面 名

宇治市産業振興センター改修機械工事 (その 2)
支援施設棟 機器表 (撤去) 【 空調設備 】

縮 尺

SHEET
M - 12

年 月 日
R7.03



GHP 1-2 新設

GHP 1-1 新設
x2

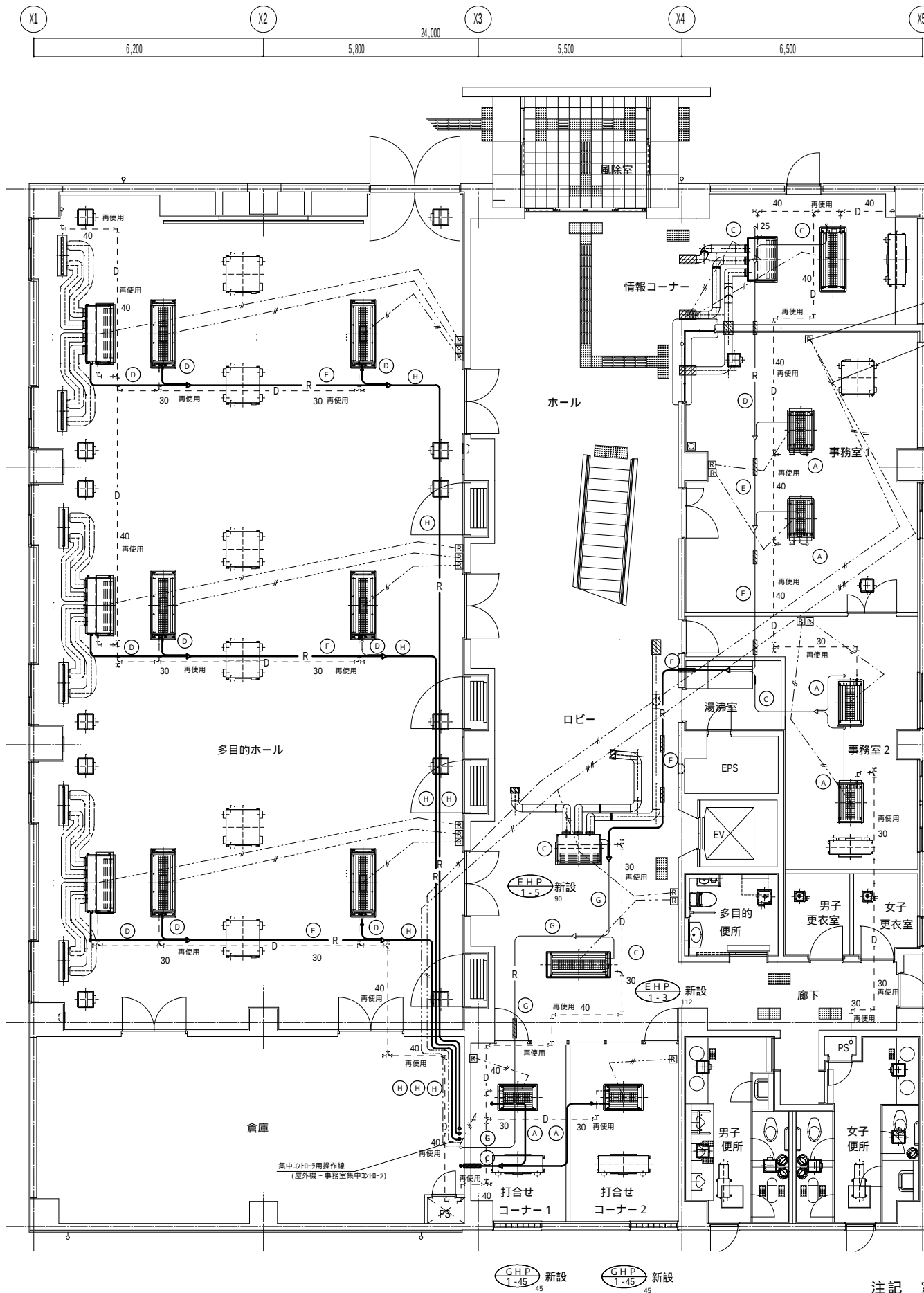
GHP 1-2 新設

GHP 1-1 新設
x2

GHP 1-2 新設

GHP 1-1 新設
x2

1階 平面図 1/100



EHP 1-3 新設
112

EHP 1-5 新設
90

EHP 1-2 新設
71

EHP 1-2 新設
71

EHP 1-1 新設
45

EHP 1-1 新設
45

GHP 1-45 新設
45

GHP 1-45 新設
45

凡例

- 既設冷媒管、ドレン管に接続を示す
- 新設冷媒管を示す
- 既設冷媒管 再使用を示す
- 既設ドレン管 再使用を示す

冷媒配管サイズ表

記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
(A)	12.7	6.35
(B)	12.7	9.52
(C)	15.88	9.52
(D)	19.05	9.52
(E)	22.2	9.52
(F)	28.6	12.7
(G)	28.6	15.88
(H)	31.8	15.88
(I)	38.1	15.88
(J)	31.8	19.05
(K)	41.3+25.4	19.05
(L)	38.1	
(M)	38.1	19.05
(N)	44.5	22.2

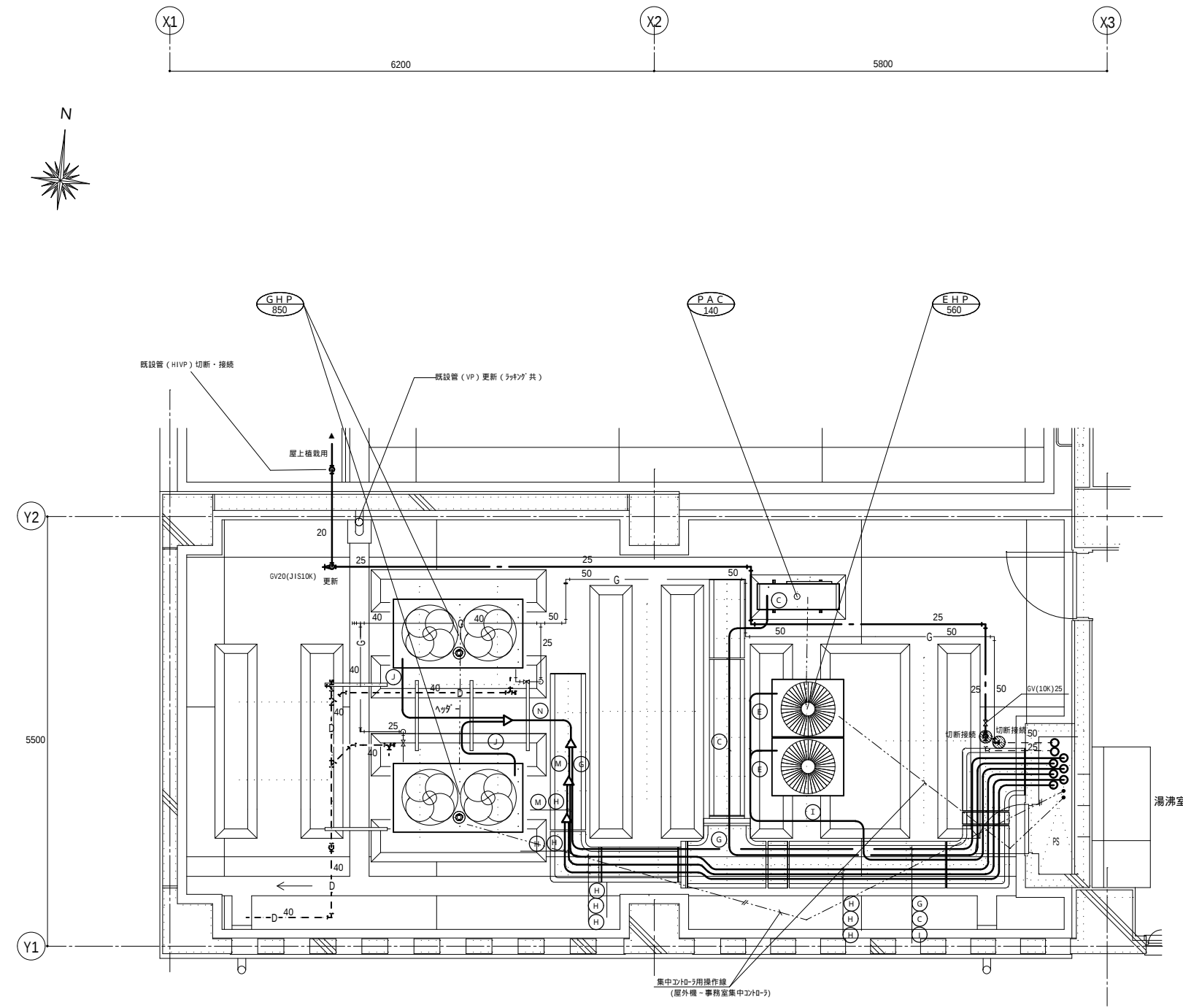
注記 室内外機 - リモコン間の配管・配線については、別途工事（電気設備）

足立建築工房 一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾 1-65
TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040

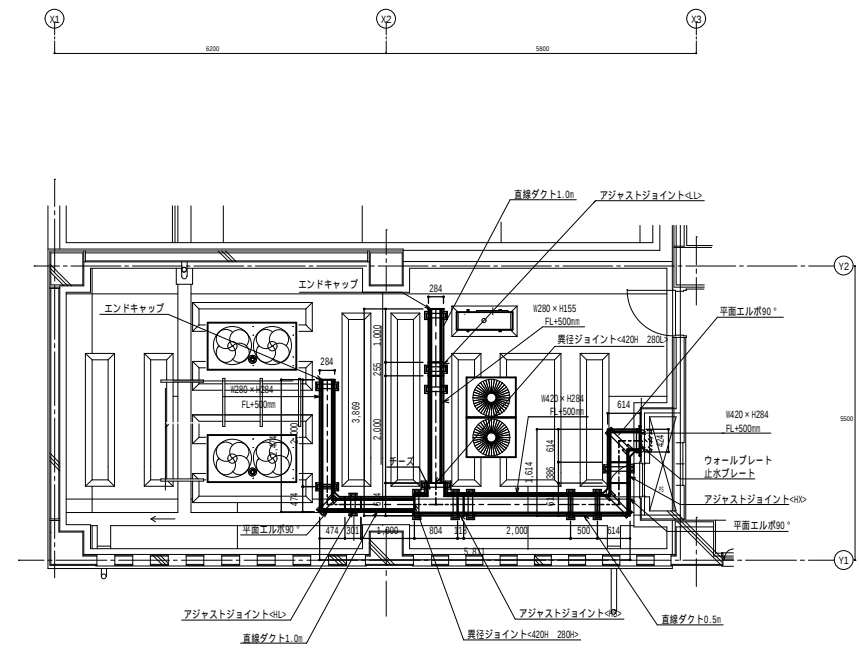
所長 主任 担当

工 事 名 宇治市産業振興センター改修機械工事（その2）
図 面 名 支援施設棟 1階平面図(改修)【空調設備】

縮尺 1/100
SHEET M-13
年 月 日 R7.03



機械置場 新設平面詳細図 1/50



冷媒配管用化粧ラック 材質 ステンレス鋼板製(SUS304 2B)
公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編) 保温化粧ケース該当品
上部歩行可能 底板セット共

冷媒配管用化粧ラック 新設平面詳細図 1/100

- 凡例
- ⊗ 既設冷媒管、給水管に接続を示す
 - R — 新設冷媒管を示す
 - - R - - 既設冷媒管 再使用を示す
 - - D - - 新設ドレン管 を示す

冷媒配管サイズ表		
記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
Ⓐ	12.7	6.35
Ⓑ	12.7	9.52
Ⓒ	15.88	9.52
Ⓓ	19.05	9.52
Ⓔ	22.2	9.52
Ⓕ	28.6	12.7
Ⓖ	28.6	15.88
Ⓗ	31.8	15.88
Ⓘ	38.1	15.88
Ⓙ	31.8	19.05
Ⓚ	41.3+25.4	19.05
Ⓛ	38.1	
Ⓜ	38.1	19.05
Ⓝ	44.5	22.2

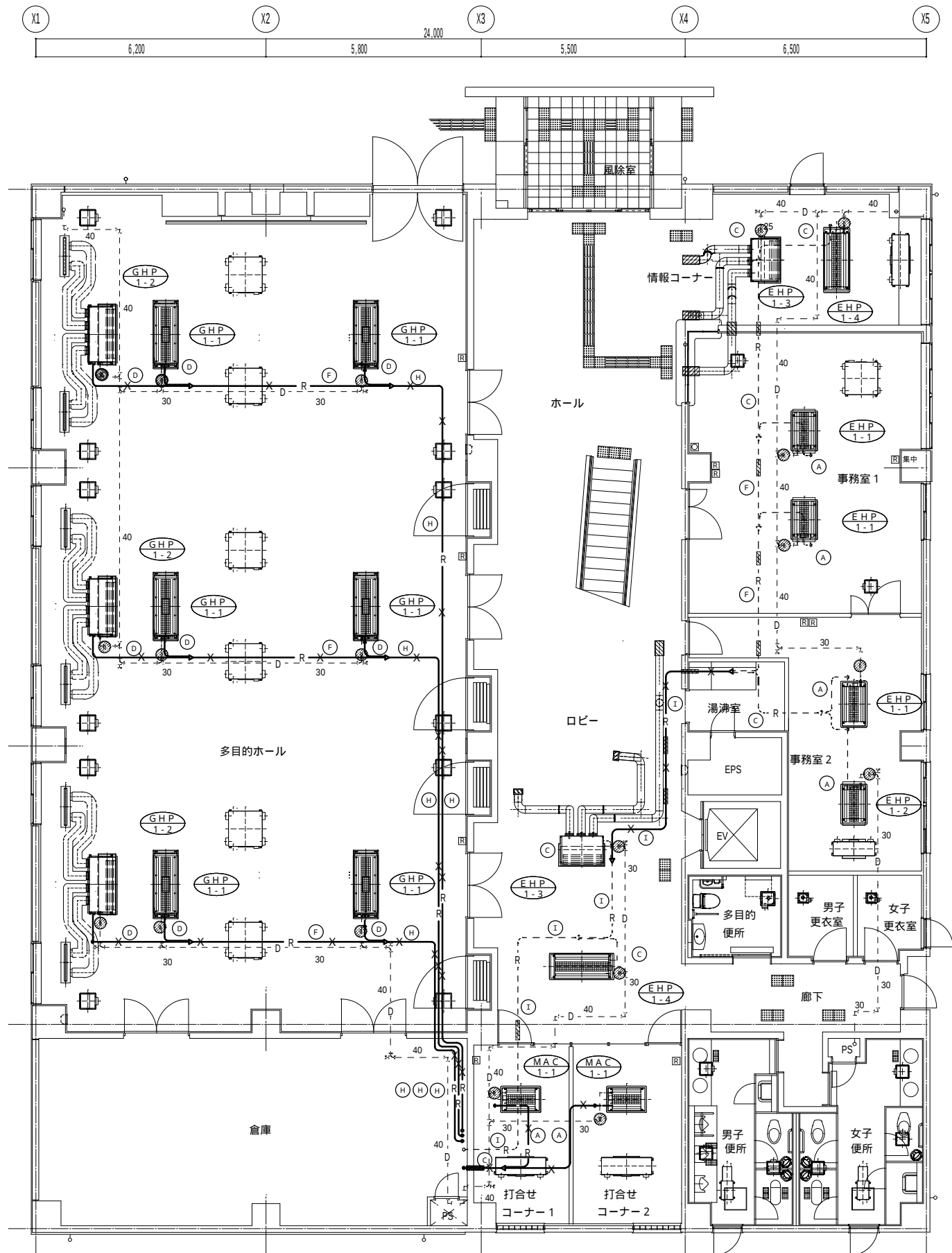
衛生設備改修		
	仕様	数量
給水管	SGP-PB 25A	11m
	SGP-PB 20A	1m
給水	GV(10K) ㌈付 25A	1個
	GV(10K) ㌈付 20A	1個
切断・接続	銅管 保温付き	2箇所
雨水管	HIVP 100φ	1m
切断・接続	塩ビ管 保温付き	2箇所

ケミカルアンカー		
φ 鉄呼び径	L(mm)	穿孔径(mm)
M-10	80	13.5
M-12	90	14.5
M-16	110	20.0
M-20	120	24.0

注記 室外機 - 集中リモコン間の配管・配線については、別途工事（電気設備）

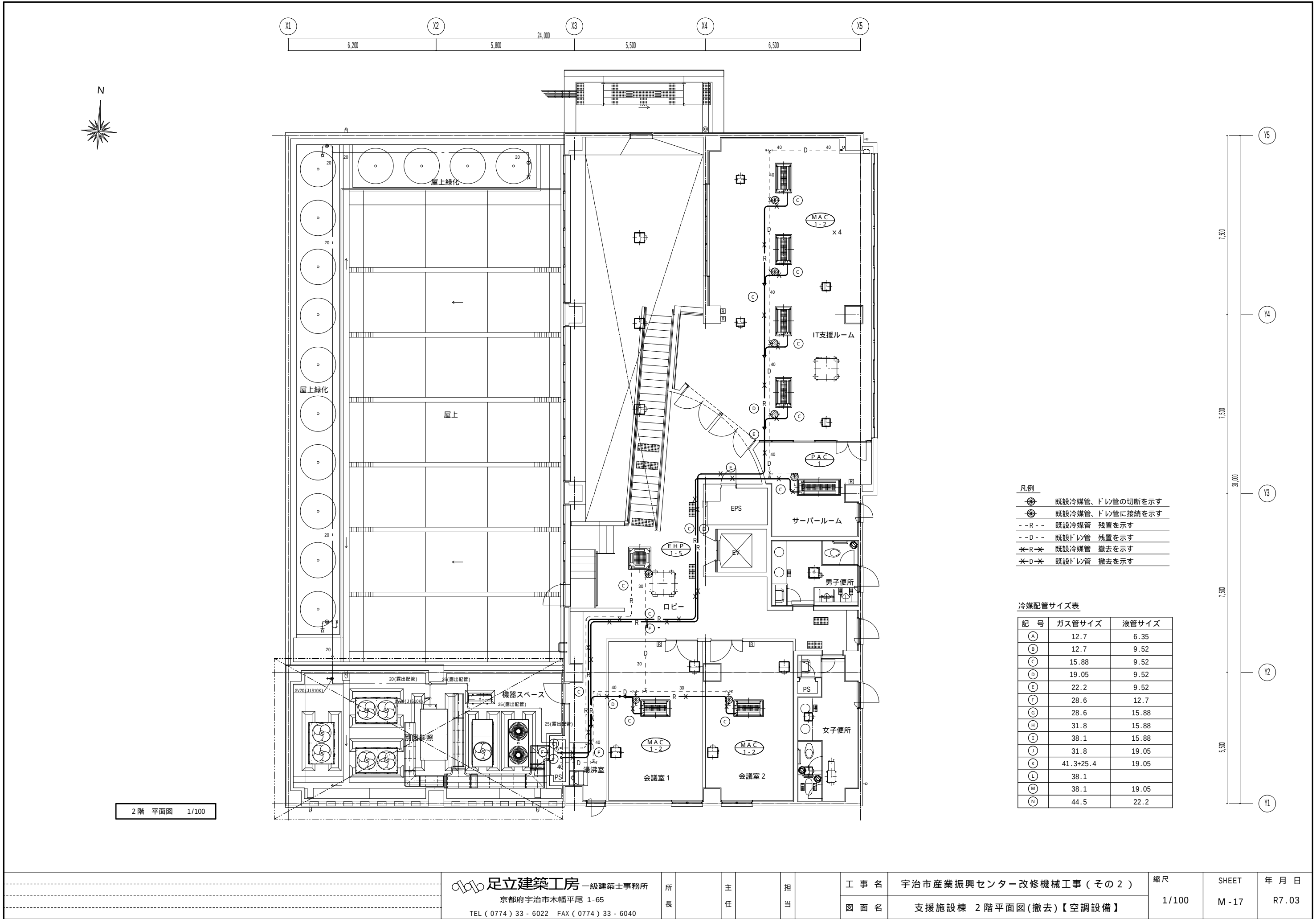


1階 平面図 1/100



- 凡例
- 既設冷媒管、ドレ管の切断を示す
 - 既設冷媒管、ドレ管に接続を示す
 - - R - - 既設冷媒管 残置を示す
 - - D - - 既設ドレ管 残置を示す
 - * R * 既設冷媒管 撤去を示す
 - * D * 既設ドレ管 撤去を示す

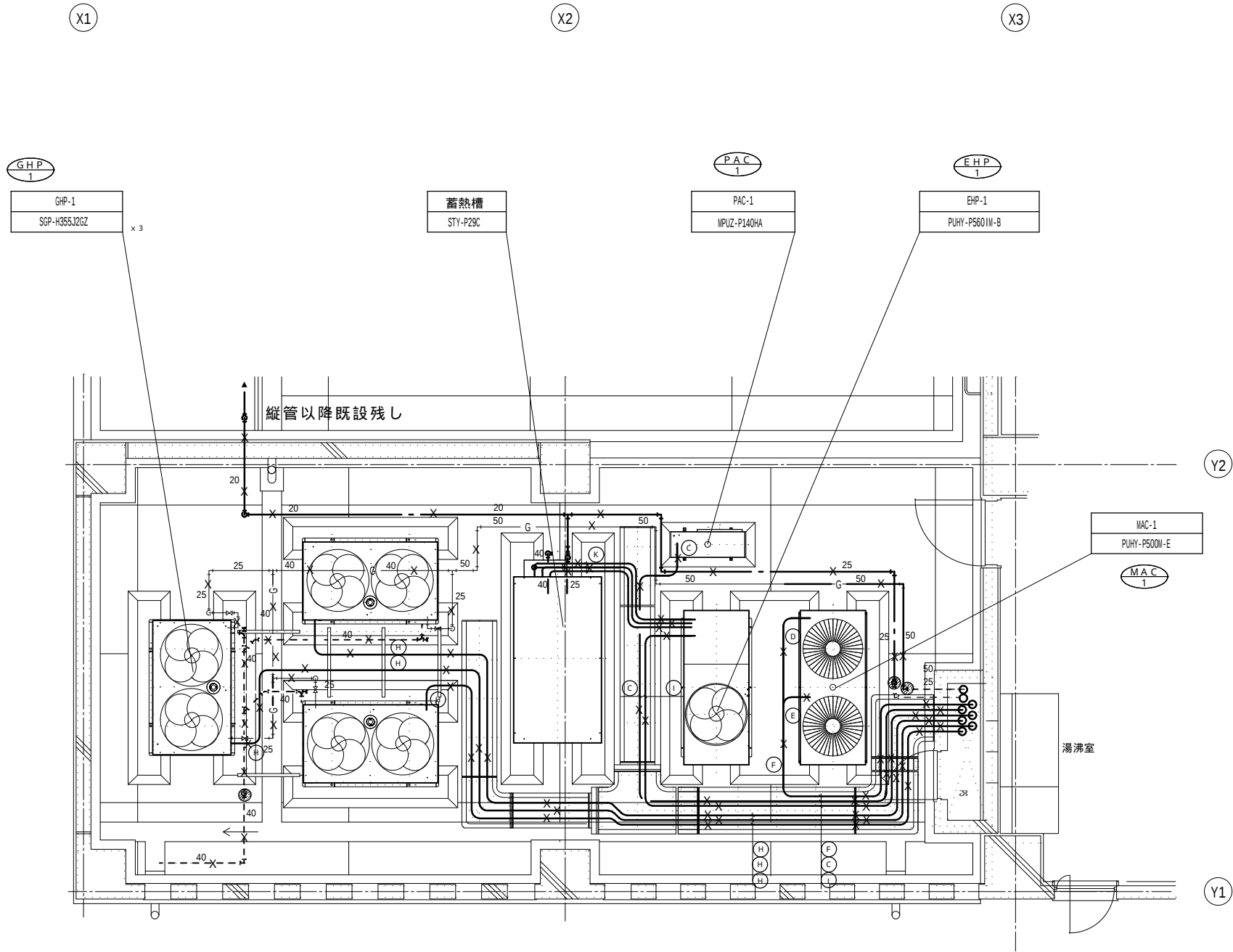
冷媒配管サイズ表		
記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
(A)	12.7	6.35
(B)	12.7	9.52
(C)	15.88	9.52
(D)	19.05	9.52
(E)	22.2	9.52
(F)	28.6	12.7
(G)	28.6	15.88
(H)	31.8	15.88
(I)	38.1	15.88
(J)	31.8	19.05
(K)	41.3+25.4	19.05
(L)	38.1	
(M)	38.1	19.05
(N)	44.5	22.2



- 凡例
- 既設冷媒管、ドレン管の切断を示す
 - 既設冷媒管、ドレン管に接続を示す
 - - R - - 既設冷媒管 残置を示す
 - - D - - 既設ドレン管 残置を示す
 - ✕ R ✕ 既設冷媒管 撤去を示す
 - ✕ D ✕ 既設ドレン管 撤去を示す

冷媒配管サイズ表

記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
(A)	12.7	6.35
(B)	12.7	9.52
(C)	15.88	9.52
(D)	19.05	9.52
(E)	22.2	9.52
(F)	28.6	12.7
(G)	28.6	15.88
(H)	31.8	15.88
(I)	38.1	15.88
(J)	31.8	19.05
(K)	41.3+25.4	19.05
(L)	38.1	
(M)	38.1	19.05
(N)	44.5	22.2

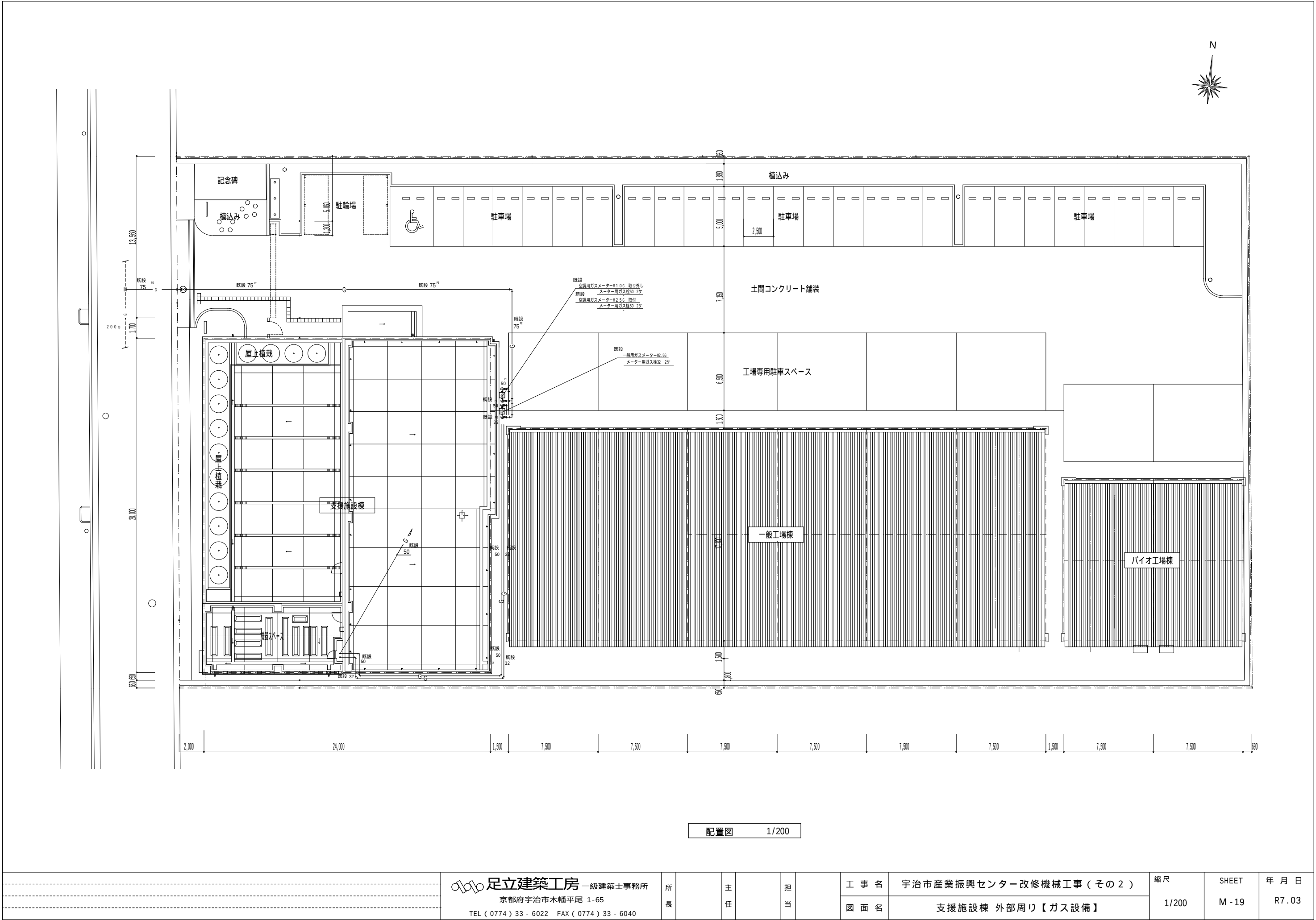


機械置場 撤去平面詳細図 1/50

- 凡例
- 既設冷媒管、他の切断を示す
 - 既設冷媒管、他に接続を示す
 - 既設冷媒管 残置を示す
 - 既設ドレン管 給水管の残置を示す
 - 既設冷媒管 ガス管の撤去を示す
 - 既設ドレン管、給水管の撤去を示す

冷媒配管サイズ表

記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
(A)	12.7	6.35
(B)	12.7	9.52
(C)	15.88	9.52
(D)	19.05	9.52
(E)	22.2	9.52
(F)	28.6	12.7
(G)	28.6	15.88
(H)	31.8	15.88
(I)	38.1	15.88
(J)	31.8	19.05
(K)	41.3+25.4	19.05
(L)	38.1	
(M)	38.1	19.05
(N)	44.5	22.2



配置図 1/200

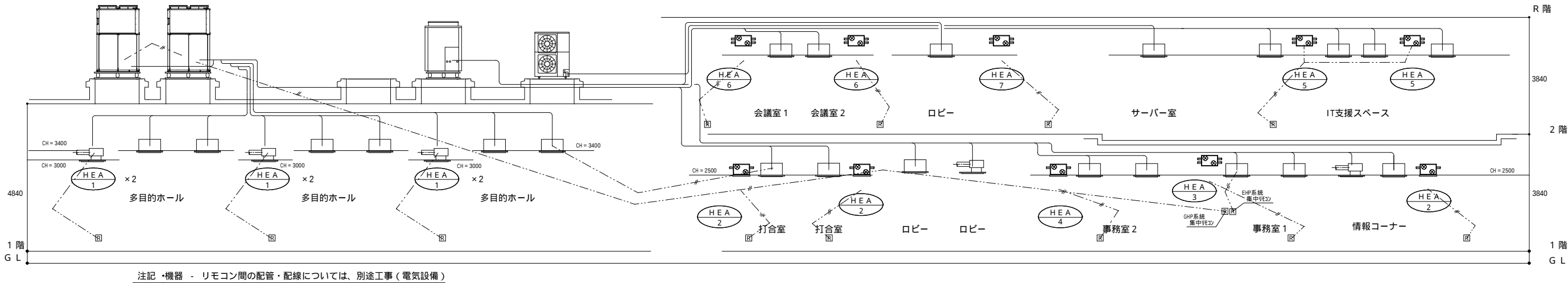
		足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040	所長	主任	担当	工事名	宇治市産業振興センター改修機械工事 (その2)	縮尺	SHEET	年月日
						図面名	支援施設棟 外部周り【ガス設備】	1/200	M - 19	R7.03

新設 機器表

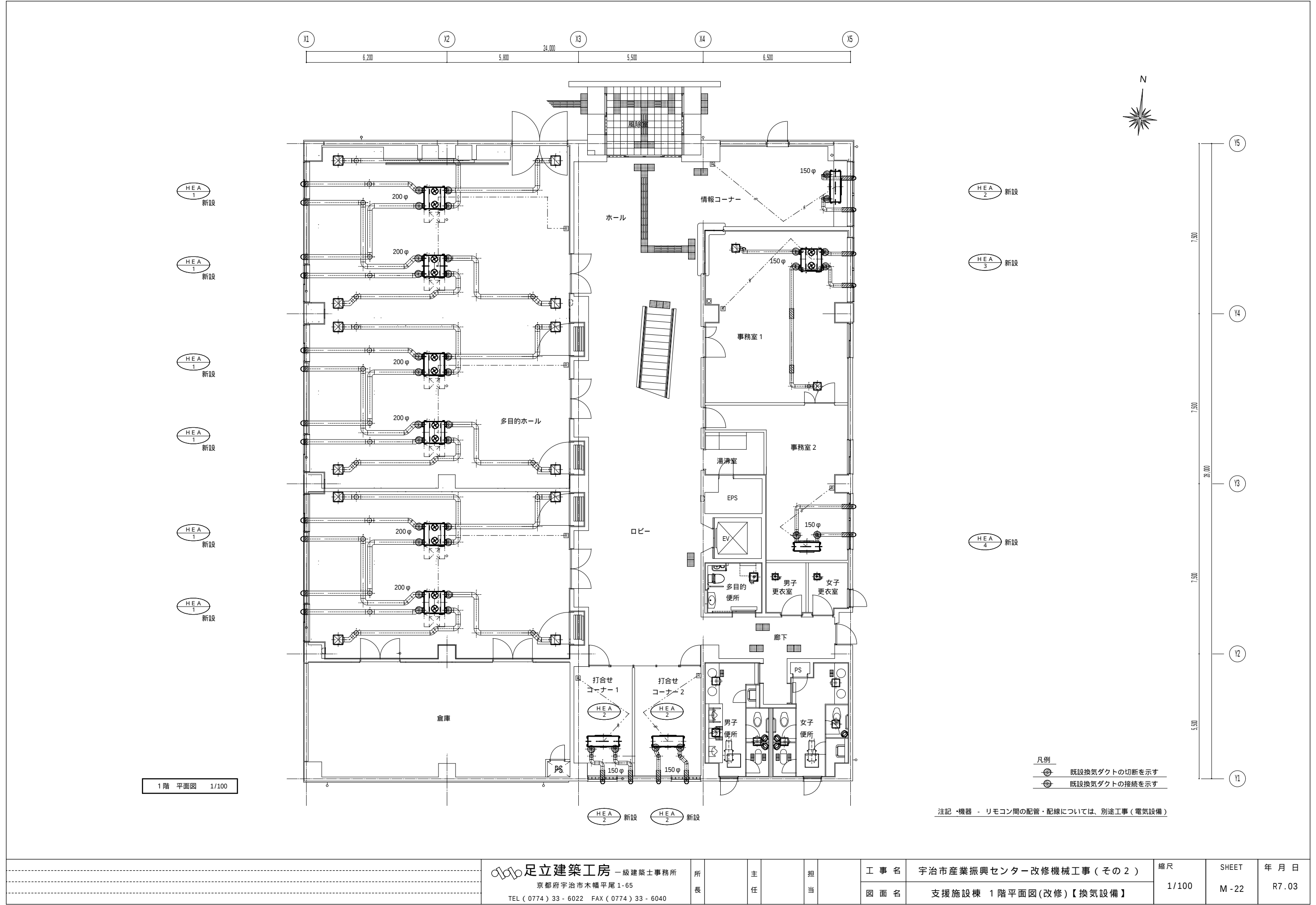
記 号	機 器 名	仕 様 電 気 容 量 φ × v w	台数	備 考
HEA 1	全熱交換機	天井埋込型 24時間換気 ダクト口径 200φ 送風量 1000m3 / h (強) 消費電力 1φ × 100v × 490w コントロ - ルスイッチ × 3 吊り金具 (FY-05BGH)	6	多目的ホール FY-M01KZD11 FY-SSUL1
HEA 2	全熱交換機	天井カセット型 24時間換気 ダクト口径 150φ 送風量 250m3 / h 消費電力 1φ × 100v × 73w コントロ - ルスイッチ × 3 吊り金具 (FY-06BGH)、ルーバー	3	情報コーナー 打合せ室 1 , 2 FY-M250ZB11 FY-SSUL1 FY-RLP2510
HEA 3	全熱交換機	天井埋込型 24時間換気 ダクト口径 150φ 送風量 350m3 / h 消費電力 1φ × 100v × 137w コントロ - ルスイッチ × 1 吊り金具 (FY-06BGH)	1	事務室 1 FY-M350ZD11 FY-SSUL1
HEA 4	全熱交換機	天井カセット型 24時間換気 ダクト口径 150φ 送風量 250m3 / h 消費電力 1φ × 100v × 73w コントロ - ルスイッチ × 1 吊り金具 (FY-06BGH)、ルーバー	1	事務室 2 FY-RLP2510
HEA 5	全熱交換機	天井埋込型 24時間換気 ダクト口径 150φ 送風量 350m3 / h 消費電力 1φ × 100v × 137w コントロ - ルスイッチ × 1 吊り金具 (FY-06BGH)	2	I T 支援スペース FY-M350ZD11 FY-SSUL1
HEA 6	全熱交換機	天井埋込型 24時間換気 ダクト口径 150φ 送風量 250m3 / h (強) 消費電力 1φ × 100v × 82w コントロ - ルスイッチ × 2 吊り金具 (FY-06BGH)	2	会議室 1、2 FY-M250ZD11 FY-SSUL1
HEA 7	全熱交換機	天井埋込型 24時間換気 ダクト口径 200φ 送風量 1000m3 / h (強) 消費電力 1φ × 100v × 490w コントロ - ルスイッチ × 1 吊り金具 (FY-05BGH)	1	2 階 ロビー FY-M01KZD11 FY-SSUL1

撤去 機器表

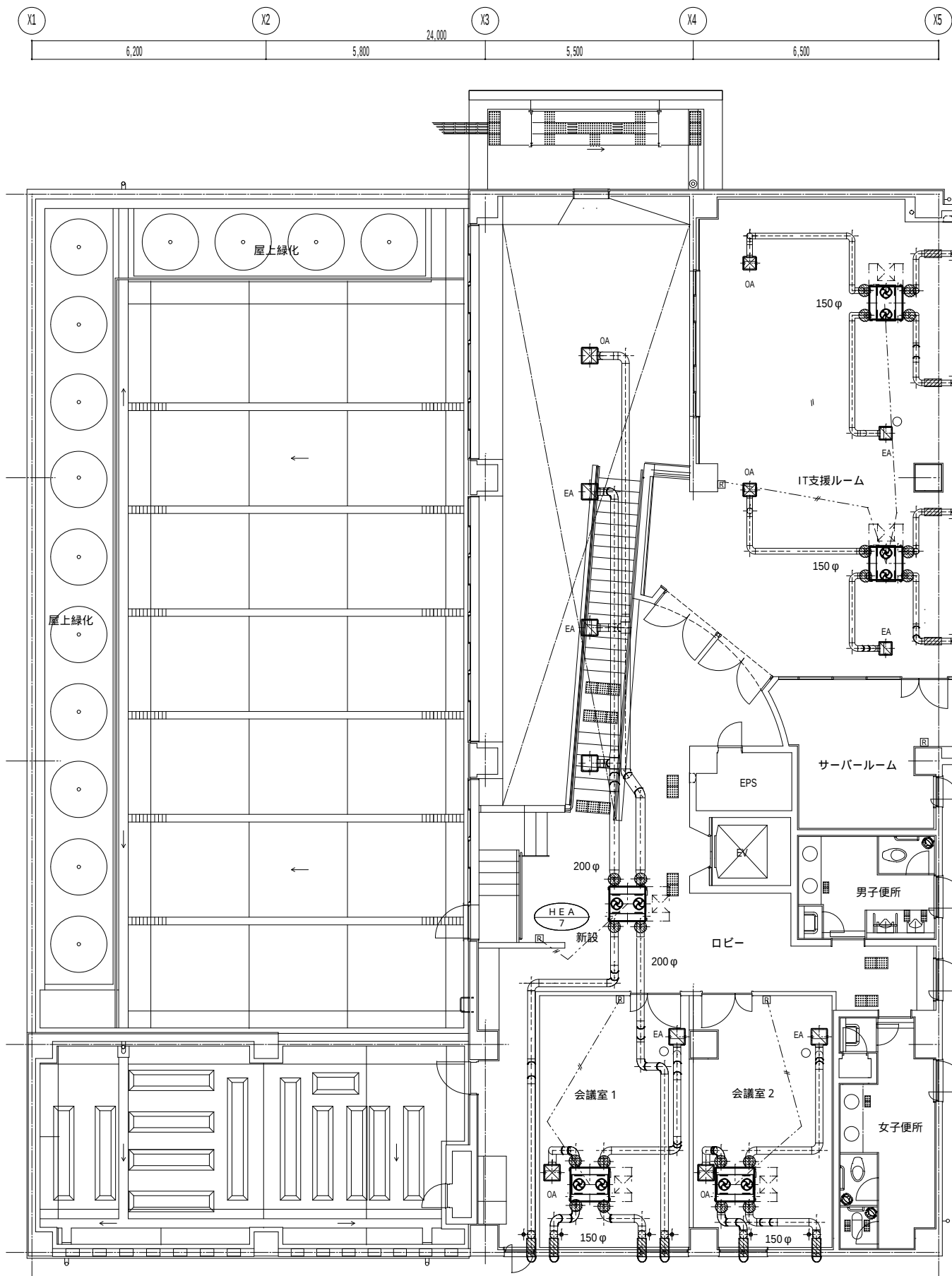
記 号	機 器 名	仕 様 電 気 容 量 φ × v w	台数	備 考
HEA 1	全熱交換機	天井埋込型 普通換気 ダクト口径 200φ 送風量 600m3 / h (強) 消費電力 1φ × 100v × 465w コントロ - ルスイッチ	6	多目的ホール
HEA 2	全熱交換機	天井カセット型 普通換気 ダクト口径 150φ 送風量 300m3 / h 消費電力 1φ × 100v × 186w コントロ - ルスイッチ	3	情報コーナー 打合せ室 1 , 2
HEA 3	全熱交換機	天井埋込型 普通換気 ダクト口径 150φ 送風量 240m3 / h 消費電力 1φ × 100v × 214w コントロ - ルスイッチ	1	事務室 1
HEA 4	全熱交換機	天井カセット型 普通換気 ダクト口径 150φ 送風量 240m3 / h 消費電力 1φ × 100v × 214w コントロ - ルスイッチ	1	事務室 2
HEA 5	全熱交換機	天井埋込型 普通換気 ダクト口径 150φ 送風量 225m3 / h 消費電力 1φ × 100v × 135w コントロ - ルスイッチ	2	I T 支援スペース
HEA 6	全熱交換機	天井埋込型 普通換気 ダクト口径 200φ 送風量 420m3 / h (強) 消費電力 1φ × 100v × 247w コントロ - ルスイッチ	2	会議室 1、2
HEA 7	全熱交換機	天井埋込型 普通換気 ダクト口径 200φ 送風量 600m3 / h (強) 消費電力 1φ × 100v × 465w コントロ - ルスイッチ	1	2 階 ロビー



新設 系統図



				所 長	主 任	担 当	工 事 名	宇治市産業振興センター改修機械工事（その２）	縮尺 1/100	SHEET M -22	年 月 日 R7.03
							図 面 名	支援施設棟 1 階平面図(改修)【換気設備】			



2階 平面図 1/100



HEA 5 新設

HEA 5 新設

HEA 7 新設

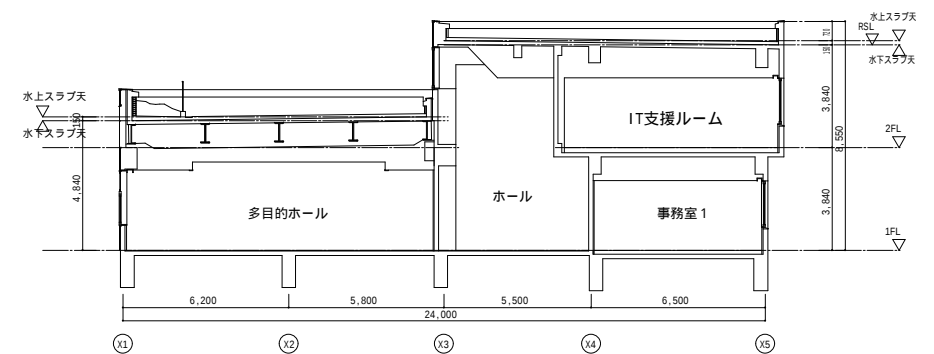
HEA 6 新設

HEA 6 新設

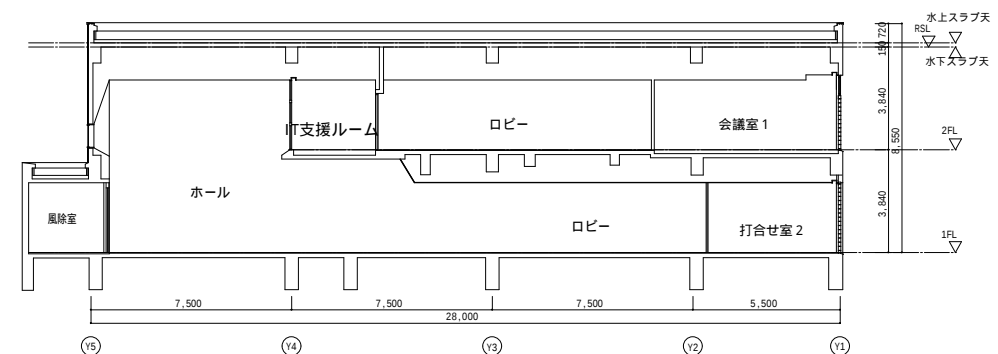
凡例

- 既設換気ダクトの切断を示す
- 既設換気ダクトの接続を示す

注記・機器・リモコン間の配管・配線については、別途工事（電気設備）

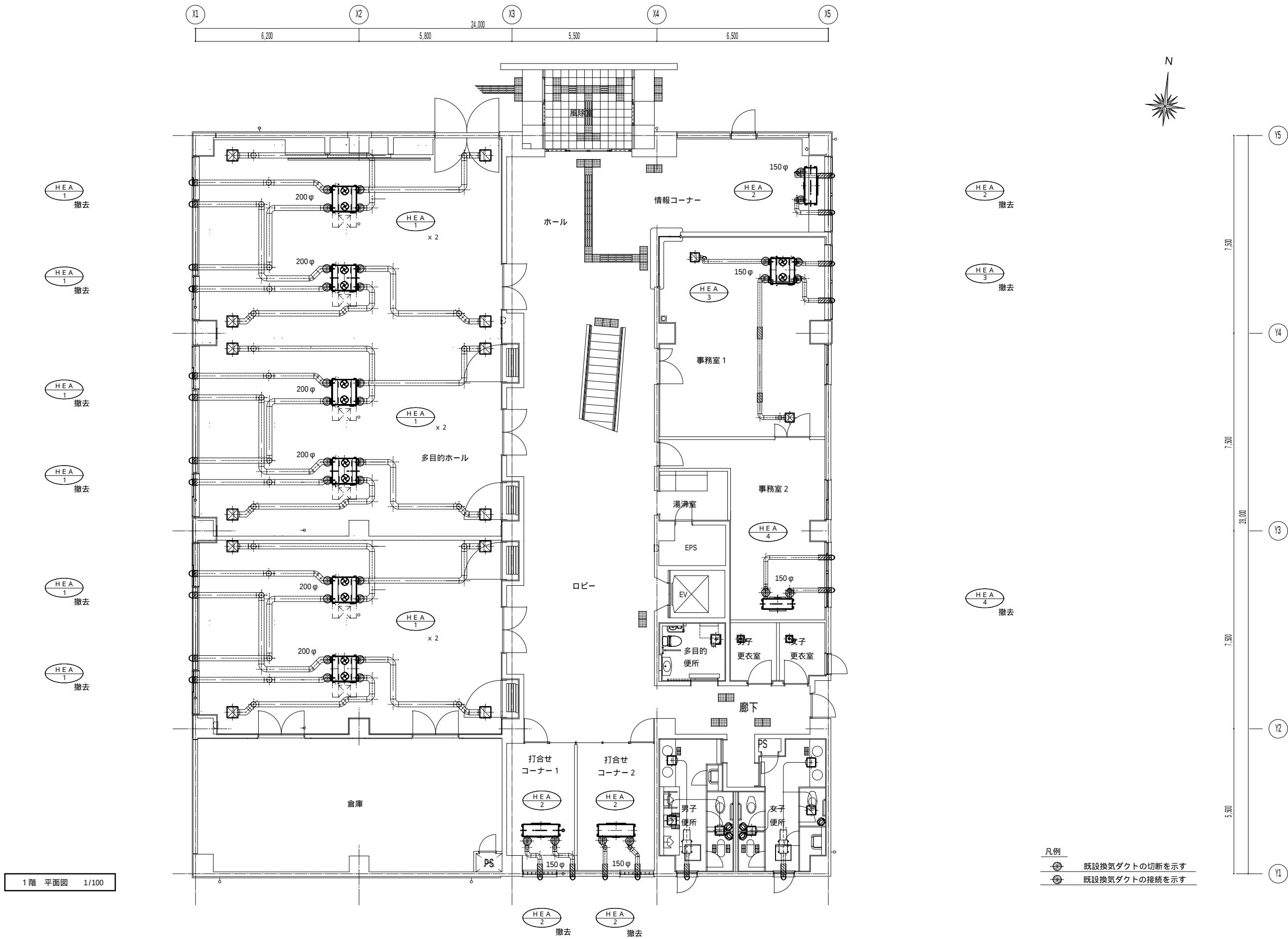


建物断面図 1/200

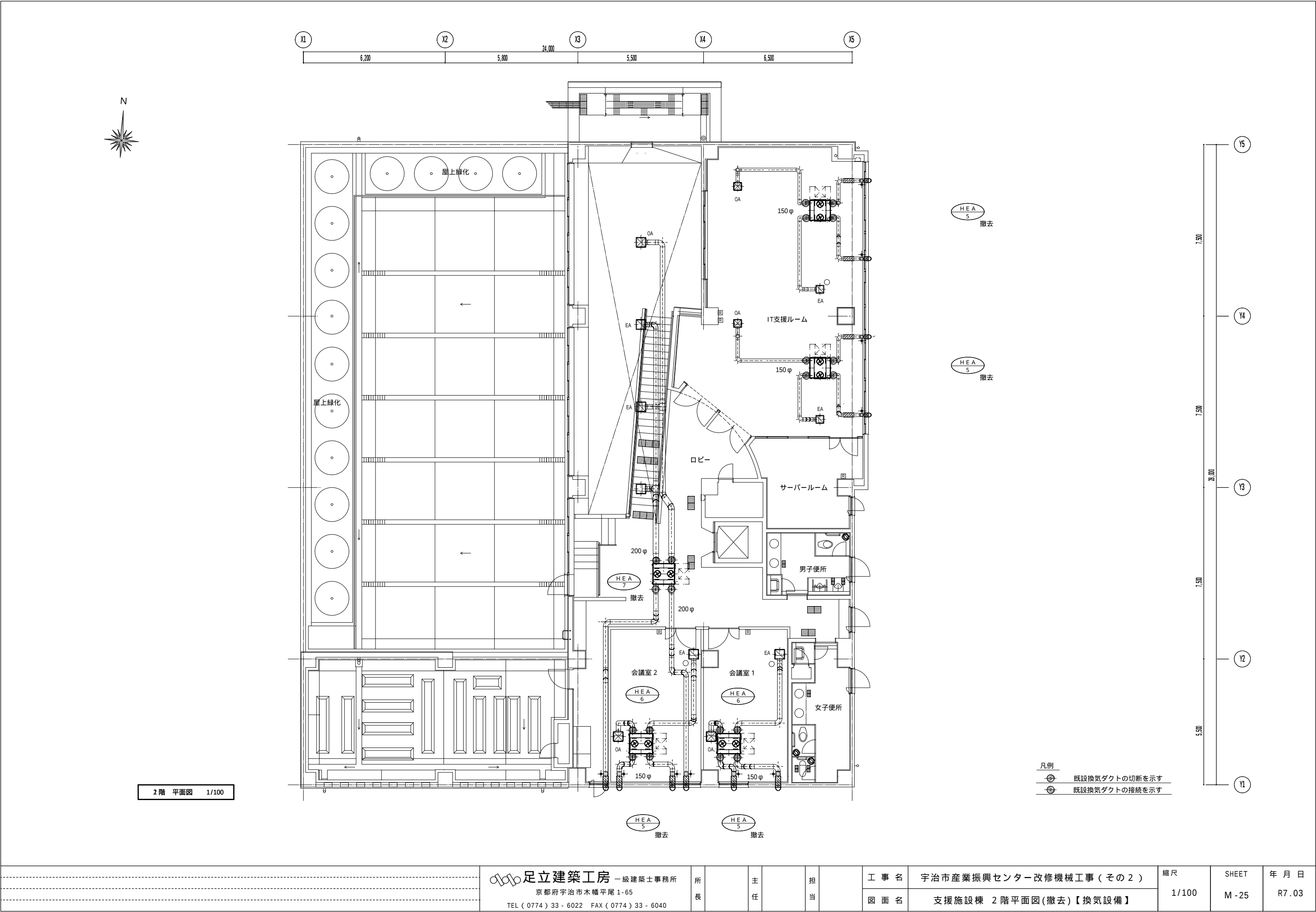


建物断面図 1/200

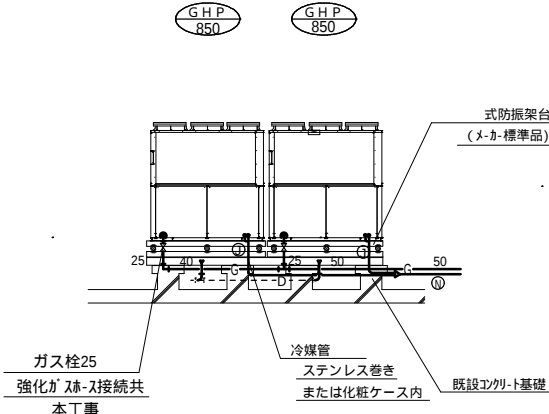
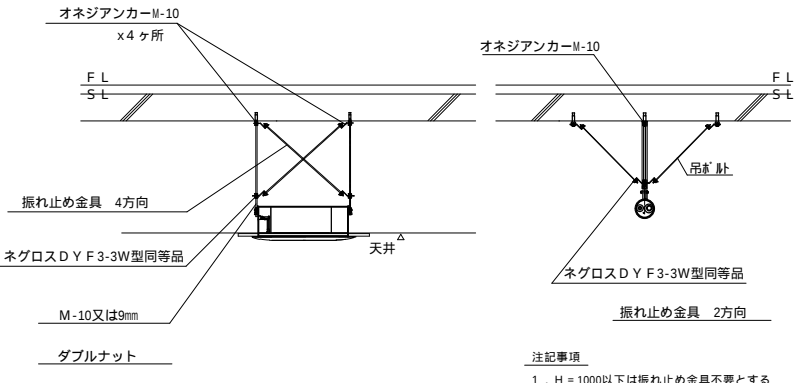
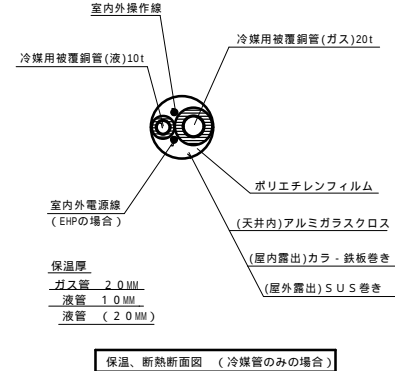
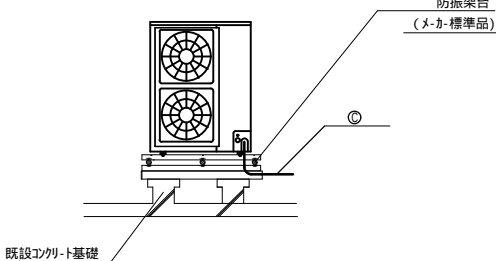
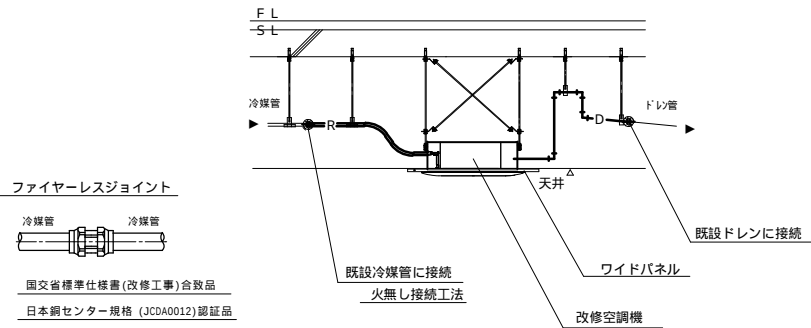
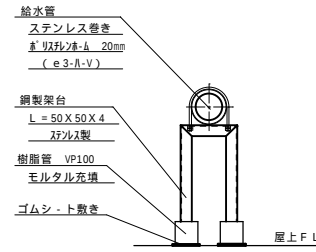
				所 長	主 任	担 当	工 事 名	宇治市産業振興センター改修機械工事（その２）	縮尺 1/100	SHEET M -23	年 月 日 R7.03
							図 面 名	支援施設棟 ２階平面図(改修)【換気設備】			



足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040				所長		主任		担当		工 事 名	宇治市産業振興センター改修機械工事（その２）	縮尺 1/100	SHEET M - 24	年 月 日 R7.03
										図 面 名	支援施設棟 1 階平面図(撤去)【換気設備】			



				足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040			所長	主任	担当	工 事 名 宇治市産業振興センター改修機械工事 (その2)	縮尺 1/100	SHEET M - 25	年 月 日 R7.03
										図 面 名 支援施設棟 2階平面図(撤去)【換気設備】			

1	室外機周り断面図（参考図） 1/100	3	屋内機据付、冷媒管 断面図 （ 振れ止め金具取り付け ）	5	冷媒管保温、断熱・制御線共巻参考図
					
2	室外ユニット架台参考図 PAC-140	4	空調機 冷媒、ドレン管接続要領図	6	冷媒管保温、断熱・制御線共巻参考図
					

建築改修工事特記仕様書

【1】工事概要

1.工事場所

2.敷地面積

3.建築物概要

4.その他

【2】適用範囲

現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。
すべての設計図書は相互に補充するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。
上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」をいう。（以下、これを「改修標仕」という。）
本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修標仕」の適用を受けるものとする。

【3】工事区分

設計図書による。
別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】工事仕様

1.設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標仕」のほか別記の適用基準による。
2.項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
3.特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、○印の付いたものを適用する。
印と●印の付いた場合は、共に適用する。印が抹消された場合は、●印のみ適用する。
4.項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章項目

特記事項

1一般共通事項

特別な材料の工法

風圧力及び積雪に対する性能

現場代理人

工事工程報告

工事実績情報の登録

設備工事との取合い

施工図等の取扱い

工事写真

設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等

風速（Vo）

地表面粗度区分

多雪地域の指定

本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。

月報は毎月末日に、日毎、翌月5日までに提出する。
日報は監督職員の指示による。
週報は毎週（ ）曜日に提出する。

適用する（適用事項は、現場説明書による）

施工範囲

図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強

図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強

駆動装置が電動による建具類の二次記録及び操作スイッチ

自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強

施工図

設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。

施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。

工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）（国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修）によるほかは監督職員の指示による。
下記のものを経営職員に提出する。

	部数(枚数につき)	分類・規格	原版の大きさ(mm)
着工前	1	カラーサービス版	24×36以上
工事中	1	カラーサービス版	24×36以上
屋内	2	カラーサービス版	24×36以上
()箇所	2	カラーキャビネ版	60×70以上
完成時	2	カラーキャビネ版	24×36以上
()箇所		カラーパネル半切	60×70以上

写真をデジタル写真で撮影する場合には、完成写真については有効画素数300万画素程度、工事写真は有効画素数130万画素程度とし、黒板の文字等の内容が判読できる精度を確保するものとする。
完成写真撮影場所は、監督職員の指示による。
完成写真撮影業者は、監督職員の承諾する撮影業者（建築写真専門業者）とする。

適用する

現場説明書による

引渡しを要するもの（ ）

工事現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの（ ）

指定副産物の搬出（詳細は現場説明書による）

アスファルトコンクリート塊

セメントコンクリート塊

建設発生木材

指定副産物の処分地（詳細は現場説明書による）

指定地処分（ ）

自由処分（最も寄りの再資源化施設へ搬出すること）

指定副産物以外の搬出

構外搬出適切処理（ ）

特別管理産業廃棄物

種類	処理方法
○ 廃石綿等	
○ PCBを含む機器類	
○ PCB含有シーリング	
○ 廃油	
○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）	
○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）	
○ SFG6ガス使用機器	

○ 廃石綿の処分地（ 東京都環境保全公社瑞穂センター ）

せっこうボードの処理方法

石綿含有せっこうボードの処理

改修標仕9.1.5による

ひ素・カドミウム含有のせっこうボードの処理

製造業者にて処分

埋立処分

その他のせっこうボードの処理

最終処分

再資源化

1一般共通事項

14石綿含有建材の調査

調査

行う

石綿の除去に当たり、あらかじめ関係法令等に基づき、石綿含有建材の事前調査を下記により行い、結果を取りまとめ、監督職員に提出するとともに、その写しを工事の現場に備え置く。

調査範囲

図示による

調査事項

石綿使用部位の確認

石綿層の厚さの確認

施工範囲と工事管理区分の確認

更衣施設等の仮設計画

廃棄物等の搬出方法

行わない

石綿含有分析方法

行う(分析結果を監督職員に提出する)

材	料	名	定性分析	定量分析
			○ (箇所数)	○ (箇所数)
			○ (箇所数)	○ (箇所数)
			○ (箇所数)	○ (箇所数)
			○ (箇所数)	○ (箇所数)

サンプル数

1箇所あたり3サンプル

行わない

既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与

あり

なし

15調査のための破壊部分の補修

1.6.3

16技能士

1.7.2

工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業
仮設工事	○ とび作業
鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業
コンクリート工事	○ 左官作業
	○ コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	○ 構造物鉄工作業
	○ とび作業
フローリング及びALCN補工事	○ コンクリートブロック工事作業
	○ ALCN補工事作業
カーポート工事	○ 金属製カーポート施工作業
	○ ビル用サッシ施工作業
	○ ガラス工事作業
防水工事	○ アスファルト防水工事作業
	○ シーリング防水工事作業
	○ ウレタン系塗膜防水工事作業
	○ セメント系防水工事作業
	○ アクリル系塗膜防水工事作業
	○ FRP防水工事作業
	○ 合成ゴムシート防水工事作業
	○ 塩化ビニル系シート防水工事作業
	○ 改質アスファルトシート工法防水工事作業
石工工事	○ 石張り作業
タイル工事	○ タイル張り作業
木工工事	○ 大工工事作業
屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業
	○ スレート工事作業
金属工事	○ 鋼製下地工事作業
	○ 内外装板金作業
左官工事	○ 左官作業
塗装工事	○ 建築塗装作業
建具工事	○ ビル用サッシ施工作業
	○ ガラス工事作業
	○ 自動ドア施工作業
内装工事	○ プラスチック系床仕上工事作業
	○ ボード仕上工事作業
	○ 家具手加工作業
	○ 壁装作業
排水工事	○ 建築配管作業
舗装工事	○ 溶融ベントナイトマーカー工事作業
	○ 加熱ベントナイトマーカー工事作業
植栽工事	○ 造園工事作業

ただし技能士に代わる者による施工の場合は監督職員の承諾を得ること。

章項目

特記事項

1一般共通事項

17施工の検査等

17.5

18化学物質の濃度測定

17.9

完成図

19.2

安全に関する資料

19.3

見本施工の実施

適用する（ ）

適用しない

適用する（適用事項は、現場説明書による）

作成する（提出部数

2部

部

）詳細は監督職員の指示による。
完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。

作成する（提出部数

2部

部

）

敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要

建物を使用する上での注意事項

建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明

建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点

主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表

建設大臣官庁官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。

2仮設工事

①足場その他

2.1.3

2.2.1

労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。

外部足場

施行箇所面に枠組足場を設ける。

施行箇所面にくさび緊結式足場を設ける。

施行箇所面に単管本足場を設ける。

仮設ゴンドラを使用する。

移動式足場を使用する。

内部足場

脚立、足場板等

防護シート等

防音パネル

防音シート

養生シート

ネット及び養生シート

材料、撤去材等の運搬方法

A種

B種

C種

D種

E種

表2.2.1

足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中柵及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式を採用すること。
屋根工事及び小屋組の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS A 8971（屋根工事前足場及び施工方法）の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置すること。

②既存部分の養生

2.3.1

既存部分の養生

行う（ビニールシート、合板

行わない

既存家具・既存設備等の養生

行う（ビニールシート

行わない

既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管

行う

行わない

養生の方法

取り外しのうえ清掃

保管場所

室内にてカバー掛の上、適切保管

家具の移動

行う（図示

行わない

既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

3仮設間仕切り

2.3.2

○ 設ける（図示）

種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填
○ A種	○ せっこうボード	○ なし	グラスウール
	種類 ○ GB-R	○ 片面	○ 24kg/m ³
○ B種	厚さ ○ mm ○ 9.5mm	○	厚さ ○ 50mm
	○ 合板		
	材質 ○ 珪藻合板	○	
	厚さ ○ mm ○ 9mm		
C種	全面シート張り		

○ 設けない

4監督職員事務所

2.4.1

規模

10㎡程度

20㎡程度

35㎡程度

65㎡程度

100㎡程度

仕上床

合板張り素地

ビニルシート敷き

ビニルシート敷き

内壁、天井

合板又はせっこうボード張り

合成樹脂化粧ボード塗り

屋根

塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り

鉄板張り調合ベイト塗り

休憩室

設けない

設ける（敷き）

備品

机

いす

保護帽

ゴム長靴

雨がっぱ

衣類ロッカー

上記6品、人分程度

書棚

黒板

製図板

掛時計

温度計

消火器

掃除具

懐中電灯

湯沸器

加入電話機

冷暖房機器

コピー機

ネット回線

流し台

改修標仕（令和4年版）

建築改修工事監理指針（令和4年版）

建築工事施工チェックシート

建築工事標準詳細図（令和4年改定）

工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）

足立建築工房

一級建築士事務所

京都府宇治市木幡平尾 1-65

TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040

所長

主任

担当

工事名

宇治市産業振興センター改修機械工事（その2）

図面名

建築改修工事特記仕様書 1

縮尺

SHEET

A-01

年月日

R7.03

Ver. H30.05

2

仮設工事

5

工事用水

6

工事用電力

7

仮囲い等

8

設計GL

2

土・鉄筋・コンクリート工事

1

埋め戻し及び盛土 (3.2.3)

2

建設発生土の処理 (3.2.5)

3

鉄筋の種類 (5.2.1)

4

溶接金網 (5.2.2)

5

コンクリートの種類 (6.2.1)

6

コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)

7

セメントの類別 (6.3.1)

8

骨材 (6.3.1)

9

混和材料 (6.3.1)

2

土・鉄筋・コンクリート工事

10

構造体強度補正值 (6.3.2)

11

コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)

12

軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)

13

寒中コンクリート (6.11.1)

14

暑中コンクリート (6.12.2)

1

既存防水の処理 (3.1.4) (3.2.3) ~ (3.2.5)

2

既存下地の処理 (3.2.6)

3

アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)

3

防水改修工事

4

改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)

5

合成高分子系防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)

3

防水改修工事

6

塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)

7

漏水試験

8

保証書

9

施工標識

10

シーリング (3.1.4) (3.7.2) ~ (3.7.8)

11

とい(雨水)

3

防水改修工事

1

断熱材 (屋根保護防水断熱工法) 厚さ mm

2

断熱材 (屋根露出防水断熱工法) 厚さ mm 種類

3

ルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 図示による

4

絶縁用シート ポリエチレンフィルム厚0.15mm以上 (保護防水工法) フラットヤーンクロス (70g/㎡程度)

5

立上り部の押え金物 アルミニウム製 L-30×15×2.0

6

立上り部の保護 乾式保護材 窯業系パネル 類 (寒冷地仕様 厚さ 幅) 窯業系パネル 類 (一般地仕様 厚さ 幅) 普通れんが (JIS R 1250) 化粧れんが (JIS R 1250) コンクリート (工法 mm) 保護層 平場の保護コンクリート厚さ mm 立て上げ mm 床タイル張り等仕上げ mm

7

コンクリート仕上りの平たんさ a種 b種 c種 (表8.1.5)

8

脱気装置 設ける 材種 設置数量 (1箇所/㎡)

9

伸縮目地 成形伸縮目地 ルーフィング 類製造所の指定品 屋上排水溝 図示による

10

屋根露出防水密着工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量

11

屋根露出防水絶縁工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量

12

屋根露出防水絶縁断熱工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量

13

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度

14

断熱材 (屋根露出防水絶縁断熱工法) 厚さ mm 種類

15

脱気装置 (絶縁工法) 設ける 材種 設置数量 (1箇所/㎡)

16

防湿層 (屋根露出防水水絶縁断熱工法) 設ける 設けない

17

S-F1、S-M1、S-M2の仕様 非歩行仕様 軽歩行仕様

18

断熱材 (断熱工法) 厚さ mm 種類 機械的固定工法の場合 接着工法の場合

19

S I - M 1 及び S I - M 2 の場合の防湿用フィルム 設置する

2

土・鉄筋・コンクリート工事

1

接着工法の場合で、P Cコンクリート部材下地の場合 目地処理 図示による 入隅部の増張り (S-F 1、S I-F 1の場合) 図示による 絶縁用シート及び可塑性移行防止用シート 発泡ポリエチレンシート 仕上げ塗料 脱気装置 (絶縁工法) 設ける 材種 設置数量 (1箇所/㎡) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。 固定金具の材質及び寸法形状 防錆処理した鋼板、スチール鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの

2

塩ビ被覆鋼板

3

脱気装置 (X-1) 設ける 材種 設置数量 (1箇所/㎡) 保護層 設ける 設けない

4

水張り試験を行う (屋内 屋外)

5

受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限は工事目的引渡しより10年間以上とする。)

6

工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 真鍮製エッチング仕上 150×100 設置数量 (箇所)

7

シーリング材の種類 改修標仕 表3.7.1による

8

シーリング改修工法及び施工箇所 改修工法の種別 施工箇所

9

シーリング再充填工法 図示による

10

拡張シーリング再充填工法

11

ブリッジ工法

12

仕上げを行わない施工箇所 (図示による) 目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びび割れ誘発目地 幅20mm以上、深さ10mm以上 ガラス回りの目地 幅5mm以上、深さ5mm以上 その他の目地 幅10mm以上、深さ10mm以上

13

シーリングの試験 簡易接着性試験 (部位) 引張接着性試験 (部位)

14

外とい(外気に接するとい)

15

ルーフトレン ルーフドレン (JCW 301) 取付け 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する

16

軒どい 硬質塩化ビニル製 (角形) (前高) 巾120mm (カラー) 巾150mm

17

たてとい 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm

18

谷どい

19

とい受け金物、足金物 改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下

足立建築工房

一級建築士事務所

京都府宇治市木幡平尾 1-65

TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040

所長

主任

担当

工事名

宇治市産業振興センター改修機械工事 (その2)

図面名

建築改修工事特記仕様書 2

Ver. H30.05

章 項 目		特 記 事 項		章 項 目		特 記 事 項		章 項 目		特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																			
3	防水改修工事	○ 内とい（V P 管は使用しない） <table><thead><tr><th colspan="2">材 質</th><th colspan="2">そ の 他</th></tr></thead><tbody><tr><td>たてとい及び横走り管</td><td>○ SGP ○</td><td colspan="2">径 75mm</td></tr><tr><td>とい受け金物、足金物</td><td>改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの</td><td colspan="2">○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下</td></tr><tr><td>防露巻き</td><td>改修標仕表3.8.3による</td><td colspan="2">F</td></tr></tbody></table> 掃除口を設ける（開放性のある自転車置き場のといを除く） ○ 養生鉄管を設ける（径 _____ 厚さ _____ 長さ _____ ） ○ 既存といの撤去及び養生（ _____ ） ○ 鋼管製といの防露巻（ _____ 改修標仕表3.8.4による ○ _____ ） ○ たてとい受金物（ _____ ） (表3.9.1)(表5.2.2) <table><thead><tr><th>種 類</th><th>幅</th><th>板厚(mm)</th><th colspan="2">表 面 処 理</th><th>備 考</th></tr></thead><tbody><tr><td>○ 250 形</td><td>250</td><td>1.6</td><td>○ AB-1種</td><td>○ AB-2種</td><td>隅角部及び突当たり部</td></tr><tr><td>○ 300 形</td><td>300</td><td>1.8</td><td>○ AC-1種</td><td>○ AC-2種</td><td>等の役物は本体製所造</td></tr><tr><td>○ 350 形</td><td>350</td><td>2.0</td><td>○ BA-1種</td><td>○ BA-2種</td><td>の仕様による。</td></tr><tr><td>● 550 形</td><td>550</td><td>2.0</td><td>○ BB-1種</td><td>● BB-2種</td><td></td></tr><tr><td>曲げ材</td><td>○ _____</td><td>2.0</td><td>○ BC-1種</td><td>○ BC-2種</td><td></td></tr><tr><td>○ オープン形式</td><td>○ _____</td><td>○ _____</td><td>○ C種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ シールド形式</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> 既存笠木等の撤去 ● 行う（範囲 _____ ● 図示 ○ _____ ） ○ 行わない 下地補修の工法 図示 ○ 板材折曲げ形の笠木取付方法 図示 ○ 建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法 図示による ○ _____		材 質		そ の 他		たてとい及び横走り管	○ SGP ○	径 75mm		とい受け金物、足金物	改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの	○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下		防露巻き	改修標仕表3.8.3による	F		種 類	幅	板厚(mm)	表 面 処 理		備 考	○ 250 形	250	1.6	○ AB-1種	○ AB-2種	隅角部及び突当たり部	○ 300 形	300	1.8	○ AC-1種	○ AC-2種	等の役物は本体製所造	○ 350 形	350	2.0	○ BA-1種	○ BA-2種	の仕様による。	● 550 形	550	2.0	○ BB-1種	● BB-2種		曲げ材	○ _____	2.0	○ BC-1種	○ BC-2種		○ オープン形式	○ _____	○ _____	○ C種			○ シールド形式						4	外壁改修工事	(4.1.4) (4.3.5) ～(4.3.8) ○ モルタル塗り仕上げ ○ 樹脂注入方法 <table><thead><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅（mm）</th><th>注入口間隔（mm）</th><th>注入量（mL/m）</th></tr></thead><tbody><tr><td>自動式低圧15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>200～300</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ 手動式15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>○ 50～100</td><td>○ 40</td></tr><tr><td>○ 機械式15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>○ 100～200</td><td>○ 70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0未満</td><td>○ 150～250</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系 ○ _____ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シール工法 ○ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂 (4.1.4) (4.4.5) ～(4.4.6) ○ タイル張り仕上げ ○ 樹脂注入方法 <table><thead><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅（mm）</th><th>注入口間隔（mm）</th><th>注入量（mL/m）</th></tr></thead><tbody><tr><td>自動式低圧15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>200～300</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ 手動式15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>○ 50～100</td><td>○ 40</td></tr><tr><td>○ 機械式15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>○ 100～200</td><td>○ 70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0未満</td><td>○ 150～250</td><td>○ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ひび割れ部の注入状況の確認 ○ コア抜き検査 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ タイル撤去後の補修 <table><thead><tr><th>工 法</th><th>材 料</th><th>施 工 箇 所</th></tr></thead><tbody><tr><td>○ タイル部分張替え工法</td><td>○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂</td><td></td></tr><tr><td>○ タイル張替え工法</td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ○ コア抜き検査 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ ○ コア抜き検査 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ (4.1.4) (4.2.4) (4.2.7) ○ コア抜き検査 抜き個数 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系 ○ _____ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シール工法 ○ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂		工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）	自動式低圧15 [※] 秒樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130					○ 手動式15 [※] 秒樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40	○ 機械式15 [※] 秒樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70		0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130					工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）	自動式低圧15 [※] 秒樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130					○ 手動式15 [※] 秒樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40	○ 機械式15 [※] 秒樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70		0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130					工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂		○ タイル張替え工法			4	外壁改修工事	伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ○ 改修標準仕様書表4.4.2による ○ タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ○ 行う ○ 行わない 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ ○ セメントモルタルによるタイル張り 下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理 ○ 目荒し工法（4.3.10(3)による） ○ タイル張りの工法 外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り 外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り ○ 有機系接着剤によるタイル張り モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理 ○ 目荒し工法（4.3.10(3)による） ○ シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ポリウレタン系 ○ 伸縮調整目地その他の目地 変性シリコン系 ○ タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル ○ モルタル塗り仕上げ <table><thead><tr><th>工 法</th><th>アカービツ（本/㎡） 一般部</th><th>注入口（箇所/㎡） 一般部</th><th>充填量（箇所/㎡）</th><th>注入量（箇所/㎡）</th><th>施工箇所</th></tr></thead><tbody><tr><td>○ アカービツ部分15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>16 ○</td><td></td><td>25</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ アカービツ全面15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>20 ○</td><td>12 ○</td><td></td><td>25</td><td></td></tr><tr><td>○ アカービツ全面15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>13 ○</td><td>12 ○</td><td></td><td>50</td><td></td></tr><tr><td>○ 注入口付アカービツ部分15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>9 ○</td><td>20 ○</td><td>25</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ 注入口付アカービツ全面15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>16 ○</td><td>16 ○</td><td></td><td>25</td><td></td></tr><tr><td>○ 注入口付アカービツ全面15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>9 ○</td><td>9 ○</td><td></td><td>50</td><td></td></tr></tbody></table> アンカーピン ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○ 注入口付アンカーピン ステンレス鋼（SUS304）呼び径6mm程度 ○ 注入工法用材料 ○ ポリマーセメントスラリー <table><thead><tr><th>広がり速度（cm/s）</th><th>長さ変化率（収縮）（％）</th><th>引張接着性（材齢28日）（N/mm²）</th><th>曲げ性能（材齢28日）（N/mm²）</th><th>吸水性（72時間）（％）</th><th>耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm²）</th></tr></thead><tbody><tr><td>3 以上</td><td>3 以下</td><td>0.5 以上</td><td>5.0 以上</td><td>15 以上</td><td>5.0 以上</td></tr></tbody></table> 保水係数 0.35～0.55 粘着係数 0.50～1.00 ○ 充填工法用材料 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル ○ モルタル塗替え工法用材料 既製品地材 ○ 使用する（形状 _____ ） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 図示 ○ (4.1.4) (4.4.5) (4.4.9) ～(4.4.15) ○ タイル張り仕上げ <table><thead><tr><th>工 法</th><th>アカービツ（本/㎡） 一般部</th><th>注入口（箇所/㎡） 一般部</th><th>充填量（箇所/㎡）</th><th>注入量（箇所/㎡）</th><th>施工箇所</th></tr></thead><tbody><tr><td>○ アカービツ部分15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>16 ○</td><td></td><td>25</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ アカービツ全面15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>20 ○</td><td>12 ○</td><td></td><td>25</td><td></td></tr><tr><td>○ アカービツ全面15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>13 ○</td><td>12 ○</td><td></td><td>50</td><td></td></tr><tr><td>○ 注入口付アカービツ部分15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>9 ○</td><td>20 ○</td><td>25</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ 注入口付アカービツ全面15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>16 ○</td><td>16 ○</td><td></td><td>25</td><td></td></tr><tr><td>○ 注入口付アカービツ全面15[※] 秒樹脂注入工法</td><td>9 ○</td><td>9 ○</td><td></td><td>50</td><td></td></tr><tr><td>○ 注入口付アカービツ全面15[※]</td></tr></tbody></table>		工 法	アカービツ（本/㎡） 一般部	注入口（箇所/㎡） 一般部	充填量（箇所/㎡）	注入量（箇所/㎡）	施工箇所	○ アカービツ部分15 [※] 秒樹脂注入工法	16 ○		25			○ アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	20 ○	12 ○		25		○ アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	13 ○	12 ○		50		○ 注入口付アカービツ部分15 [※] 秒樹脂注入工法	9 ○	20 ○	25			○ 注入口付アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	16 ○	16 ○		25		○ 注入口付アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	9 ○	9 ○		50		広がり速度（cm/s）	長さ変化率（収縮）（％）	引張接着性（材齢28日）（N/mm ² ）	曲げ性能（材齢28日）（N/mm ² ）	吸水性（72時間）（％）	耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm ² ）	3 以上	3 以下	0.5 以上	5.0 以上	15 以上	5.0 以上	工 法	アカービツ（本/㎡） 一般部	注入口（箇所/㎡） 一般部	充填量（箇所/㎡）	注入量（箇所/㎡）	施工箇所	○ アカービツ部分15 [※] 秒樹脂注入工法	16 ○		25			○ アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	20 ○	12 ○		25		○ アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	13 ○	12 ○		50		○ 注入口付アカービツ部分15 [※] 秒樹脂注入工法	9 ○	20 ○	25			○ 注入口付アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	16 ○	16 ○		25		○ 注入口付アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	9 ○	9 ○		50		○ 注入口付アカービツ全面15 [※]
		材 質		そ の 他																																																																																																																																																																																																																																									
たてとい及び横走り管	○ SGP ○	径 75mm																																																																																																																																																																																																																																											
とい受け金物、足金物	改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの	○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下																																																																																																																																																																																																																																											
防露巻き	改修標仕表3.8.3による	F																																																																																																																																																																																																																																											
種 類	幅	板厚(mm)	表 面 処 理		備 考																																																																																																																																																																																																																																								
○ 250 形	250	1.6	○ AB-1種	○ AB-2種	隅角部及び突当たり部																																																																																																																																																																																																																																								
○ 300 形	300	1.8	○ AC-1種	○ AC-2種	等の役物は本体製所造																																																																																																																																																																																																																																								
○ 350 形	350	2.0	○ BA-1種	○ BA-2種	の仕様による。																																																																																																																																																																																																																																								
● 550 形	550	2.0	○ BB-1種	● BB-2種																																																																																																																																																																																																																																									
曲げ材	○ _____	2.0	○ BC-1種	○ BC-2種																																																																																																																																																																																																																																									
○ オープン形式	○ _____	○ _____	○ C種																																																																																																																																																																																																																																										
○ シールド形式																																																																																																																																																																																																																																													
工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）																																																																																																																																																																																																																																										
自動式低圧15 [※] 秒樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130																																																																																																																																																																																																																																										
○ 手動式15 [※] 秒樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40																																																																																																																																																																																																																																										
○ 機械式15 [※] 秒樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70																																																																																																																																																																																																																																										
	0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130																																																																																																																																																																																																																																										
工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）																																																																																																																																																																																																																																										
自動式低圧15 [※] 秒樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	200～300	○ 130																																																																																																																																																																																																																																										
○ 手動式15 [※] 秒樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○ 50～100	○ 40																																																																																																																																																																																																																																										
○ 機械式15 [※] 秒樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○ 100～200	○ 70																																																																																																																																																																																																																																										
	0.5以上1.0未満	○ 150～250	○ 130																																																																																																																																																																																																																																										
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																											
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂																																																																																																																																																																																																																																												
○ タイル張替え工法																																																																																																																																																																																																																																													
工 法	アカービツ（本/㎡） 一般部	注入口（箇所/㎡） 一般部	充填量（箇所/㎡）	注入量（箇所/㎡）	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																								
○ アカービツ部分15 [※] 秒樹脂注入工法	16 ○		25																																																																																																																																																																																																																																										
○ アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	20 ○	12 ○		25																																																																																																																																																																																																																																									
○ アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	13 ○	12 ○		50																																																																																																																																																																																																																																									
○ 注入口付アカービツ部分15 [※] 秒樹脂注入工法	9 ○	20 ○	25																																																																																																																																																																																																																																										
○ 注入口付アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	16 ○	16 ○		25																																																																																																																																																																																																																																									
○ 注入口付アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	9 ○	9 ○		50																																																																																																																																																																																																																																									
広がり速度（cm/s）	長さ変化率（収縮）（％）	引張接着性（材齢28日）（N/mm ² ）	曲げ性能（材齢28日）（N/mm ² ）	吸水性（72時間）（％）	耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm ² ）																																																																																																																																																																																																																																								
3 以上	3 以下	0.5 以上	5.0 以上	15 以上	5.0 以上																																																																																																																																																																																																																																								
工 法	アカービツ（本/㎡） 一般部	注入口（箇所/㎡） 一般部	充填量（箇所/㎡）	注入量（箇所/㎡）	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																								
○ アカービツ部分15 [※] 秒樹脂注入工法	16 ○		25																																																																																																																																																																																																																																										
○ アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	20 ○	12 ○		25																																																																																																																																																																																																																																									
○ アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	13 ○	12 ○		50																																																																																																																																																																																																																																									
○ 注入口付アカービツ部分15 [※] 秒樹脂注入工法	9 ○	20 ○	25																																																																																																																																																																																																																																										
○ 注入口付アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	16 ○	16 ○		25																																																																																																																																																																																																																																									
○ 注入口付アカービツ全面15 [※] 秒樹脂注入工法	9 ○	9 ○		50																																																																																																																																																																																																																																									
○ 注入口付アカービツ全面15 [※]																																																																																																																																																																																																																																													

5

建具改修工事

15

自閉式上吊り引戸装置
(5.10.3)

16

重量シャッター
(5.11.2) ~ (5.11.4)

17

軽量シャッター
(5.12.2) ~ (5.12.4)

18

オーバーヘッドドア
(5.13.2) ~ (5.13.4)

19

ガラス
(5.14.2) ~ (5.14.4)

○ 引き戸用検出装置性能値
改修標準 表5.9.3による

○

放射無線周波数電磁界耐性

○

耐電圧

○

防錆

○

防滴

○

電源

戸の開閉方式

建具表による

○

引き戸検出装置の種類

○ 表 5.9.4 () による

建具表による

タッチスイッチの種類

○ 無線式タッチスイッチ

○ 光線式タッチスイッチ

車椅子使用者用便房

○ 大形押しボタンスイッチ

○ 非接触スイッチ

凍結防止措置

○ 行う

性能値等の区分
(表5.10.1)

通用戸の総質量(kg)

○ 40以下

○ 40を超えるもの

手動開き力(N)

15以下

○

20以下

○

手動閉じ力(N)

15以下

○

20以下

○

性能等

品質・規格

種 類

○ 管理用シャッター (シャッターケース 設ける)

○ 耐風圧強度 ()

○ 外壁用防火シャッター(シャッターケース 設ける)

○ 耐風圧強度 ()

○ 屋内用防火シャッター(シャッターケース 設ける)

○ 屋内用防煙シャッター(シャッターケース 設ける)

外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 Pa

開閉方式

電動式 (手動併用)

○ 手動式

電動式シャッターには安全装置を設ける

設置箇所

○ 図示による

○

スラット及びシャッターケース用鋼板

材 質

めっきの付着量

○ JIS G 3302

○ Z12又はF12を満足するもの

○

○ JIS G 3312

○ Z12又はF12を満足するもの

○

開閉方式

○ 電動式 (手動併用)

手動式

電動式シャッターには安全装置を設ける

設置箇所

○ 図示による

○

耐風圧強度 Pa

スラット

材 質

めっきの付着量

形 状

○ JIS G 3312

○ Z06又はF06を満足するもの

○

○ インターロッキング形

○ JIS G 3322

○ A290を満足するもの

○

○ オーバーラッピング形

セクション材

スチールタイプ

○ アルミニウムタイプ

○ ファイバーグラスタイプ

耐風圧性能 Pa

開閉方式

バランス式

○ チェーン式

○ 電動式

電動式シャッターには安全装置を設ける

設置箇所

○ 図示による

○

収納形式

○ スタンダード形

○ ローヘッド形

○ ハイリフト形

○ パーチカル形

ガイドレール等

溶融亜鉛めっき鋼板

○ ステンレス鋼板

20

ガラス留め材
(5.14.2)

21

ガラスブロック
(5.14.5)

22

木製建具
(5.7.2) ~ (5.7.4)

23

ポリカーボネイト樹脂板

建 具 の 種 類

材 質

アルミニウム製

シーリング材(SR-1)

○ グレージングチャンネル

樹脂製

○ グレージングチャンネル

鋼製・鋼製軽量・ステンレス製

シーリング材(SR-1)

○ パテ 1種

○ 2種

木製

パテ (木製用)

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。

防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。

寸 法 (mm)

厚 さ (mm)

色 調

パターン

防 火 認 定

x

○ 図示

○ 乳白

○ 熱線反射

○ なし

○ あり

品質規格はJIS A5212 による

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。

○ 壁用金属枠及び補強材

○ 骨 材 質

SUS304

○

寸法・形状

径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋

○

○ シーリング

表3.7.1による

○ SR-1

○ PS-1

○

○ 化粧目地モルタルの色

○ 白

○ グレー

○

○ 金属製化粧カバー

材質

SUS304

○

寸法・形状

図示による

○

○ 目地幅の寸法

○ 平積みの場合

8mm以上、15mm以下

○

○ 曲面積みの場合

外側15mm以下、内側6mm以上

(曲率半径はガラスの幅寸法の 1.0 倍以上)

○

○ 伸縮調整目地の位置

6mm以下ごとに幅10 ~ 25mmの伸縮調整目地を設ける。

○

建具材の加工、組立時の含水率の種別

A種

○ B種

代用樹種の適用

可

○ 不可

接着剤のホルムアルデヒド放散量

F

○

○ フラッシュ戸

表面材のホルムアルデヒド放散量等

改修標準5.7.2(2)(イ)による

表面材の合板の種類

合板の種類

規 格 等

備 考

○ 普通合板

表面の樹脂

○

板面の品質 (広葉樹 1種

○

○

○ 1種

○ 2種

○

○ 天然化粧合板

樹種名 ()

○

○

○ 1種

○ 2種

○

○ 特殊加工化粧合板

化粧加工の方法

プリント

○ ポリエステル化粧合板

○

○メラミン化粧合板

○

○

○ 1種

○ 2種

○

○ MDF

表面板の厚さ

○ 図示による

○

(表5.7.6)

引き戸の召合せかまちのいんろう付きの適用

○ 適用しない

○ 適用する

○ かまち戸

かまち樹種 ()

鏡板樹種 ()

○

○ 見込み寸法

36mm

○

○ ふすま

張りの種別

○ 型

○ 型

上張り (押入等の裏側以外)

○ 鳥の子

○ 新鳥の子又はビニル紙程度

見込み寸法

19.5mm

○

○ 戸ぶすま

表面板の仕上

○ 図示による

○

見込み寸法

30mm

○

○ 紙張り障子

見込み寸法

30mm

○

種類

厚さ

mm

6

内装改修工事

②

他の部分との
取り合い等
(6.1.3)

3

既存床の撤去等
(6.2.2)

4

既存壁の撤去等
(6.3.2)

5

木下地等
(6.5.1) ~ (6.5.9)

木材、木れんが、ビニル床シート、タイル、コンクリート床、カーペット、合成樹脂塗床、フローリング、ボード類、タイル、断熱材の接着に使用する
接着剤のホルムアルデヒド放散量

F

○

木材塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量

F

○

既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲

壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。

○ 図示による

○ 範囲 () 仕上げ ()

天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲

壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。

○ 図示による

○ 範囲 () 仕上げ ()

天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修

既存のまま

○ 図示による

○ 範囲 () 仕上げ ()

種 別

工 法

施 工 箇 所

○ ビニル床シート等

○ 下地材の除去

○ 図示による

○

○ 合成樹脂塗床材

○ 機械的除去工法

○ 図示による

○

○ フローリング張り床材

○ 床タイル

○ 床組

コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外装改修工事による。

間仕切壁撤去に伴う構造体の補修

改修標準4.3.10によるモルタル塗り

(塗り厚25mmを超える場合の補修

○ 行う

○ 行わない)

○

材料のホルムアルデヒド放散量

F

又は改修標準6.5.2(1)(ウ)(b)による

含水率

下地材

A種(15%以下)

○ B種(20%以下)

造作材

A種(15%以下)

○ B種(18%以下)

以下に規定されているものは、その規定による。

JAS 1083 (製材) に基づく製材

○ 下地用製材

使用箇所

樹 種

寸 法

等級

含水率

保存処理

胴 縁

杉

○ 図示

○ 1級

○ 2級

15%以下

○ 造作用製材

使用箇所

樹 種

寸 法

等級

含水率

保存処理

額 縁

桧

○ 図示

○ 無節

○ 小節

○ 並

15%以下

○ 広葉樹製材

使用箇所

樹 種

寸 法

等級

含水率

保存処理

○ 特等

○ 1等

○ 2等

○

10%以下

○ JAS 1083 (製材) 以外の製材

(表12.2.2)

使用箇所

樹 種

寸 法

材面の品質

防虫処理

含水率

A種

○ B種

使用木材のうち杉、ひのきについては京都府産木材とする。

○ 工事完成までに、ウッドマレージ®C02京都の木認証書 (京都府産木材証明書及びウッドマレージ®C02計算書) (注 1) を提出する事を原則とする。当該認証を受けた木材の使用が困難な場合には、京都の木証明書 (京都府産木材証明書) (注 2) を提出すること。

証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。

一般財団法人京都府木材組合連合会

TEL : 075-802-2991

注 1) 認証書

注 2) 証明書は製材助、流通業者の全てが取扱事業体又は認証機関登録事業体でなければ発行されない。

詳細は上記法人のホームページを参照すること。

○ 工事完成までに、京都府産木材の産地証明書を提出すること。

京都木材規格(KTS)材を使用する場合は、京都木材規格(KTS)材証明書 (発行機関：(一社) 京都府木材組合連合会) を提出すること。

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

○ 造作用集成材

使用箇所

品 名

樹 種

見付材面数

寸 法

見付材面の品質

1等

○ 2等

○ 化粧ばり造作用集成材

使用箇所

品 名

樹 種

寸法

化粧板薄厚

見付材面数

見付材面の品質

化粧材

芯材

1等

○ 2等

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

○ 造作用集成材

使用箇所

樹 種

寸 法

見付材面の品質

含水率

15%以下

○

○ 化粧ばり造作用集成材

使用箇所

化粧樹種名

芯材樹種名

寸法

化粧板薄厚

見付材面の品質

含水率

15%以下

○

JAS 0701 (単板積層材) に基づく造作用単板積層材

○ 造作用単板積層材

使用箇所

品名

寸法

表面の品質

防虫処理

○ 表面化粧加工なし

○ 1等

○ 2等

○ 3等

○ 表面化粧加工あり

○ 天然木化粧加工

○ 塗装加工

○ 適用する

○ 適用しない

JAS 0701 (単板積層材) 以外の造作用単板積層材

○ 造作用単板積層材

使用箇所

寸法

表面の品質

含水率

防虫処理

○ 表面化粧加工なし

○

○ 表面化粧加工あり

○ 天然木化粧加工

○ 塗装加工

14%以下

○

○ 適用する

○ 適用しない

○ JAS 3079 (直交集成板)

施工箇所

品 名

上げ性能 (強度等級)

種別

接着性能 (使用環境)

樹種

寸法 (mm)

合板等

「合板の日本農林規格」による普通合板

使用箇所

品 名

厚さ

樹種名

接着程度

板面の品質

保存処理

その他処理

押入れ、物入れ

5.5mm

1類

広葉樹

○ 防虫処理

○

○ 2類

2等以上

○ 難燃処理

針葉樹

C・D以上

○ 防災処理

「合板の日本農林規格」による構造用合板

使用箇所

品 名

等級

厚さ

樹種名

接着程度

板面の品質

保存処理

その他処理

畳床下

2級

12mm

1類

C・D

○ 防虫処理

地材、フローリング張り下地材

以上

○

○ 特類

以上

○ 強度等級

「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

使用箇所

品 名

厚さ

単板の樹種名

接着程度

防虫処理

○ 1類

○ 特類

「合板の日本農林規格」による天然化粧合板

使用箇所

品 名

厚さ

単板の樹種名

接着程度

防虫処理

化粧板に使用する単板の樹種名

○ 1類

○ 2類

「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

使用箇所

品 目

厚さ

接着程度

単板の樹種名

化粧加工の方法

防虫処理

足立建築工房

一級建築士事務所

京都府宇治市木幡平尾 1-65

TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040

所長

主任

担当

工 事 名

宇治市産業振興センター改修機械工事 (その 2)

図 面 名

建築改修工事特記仕様書 5

縮尺

SHEET A-05

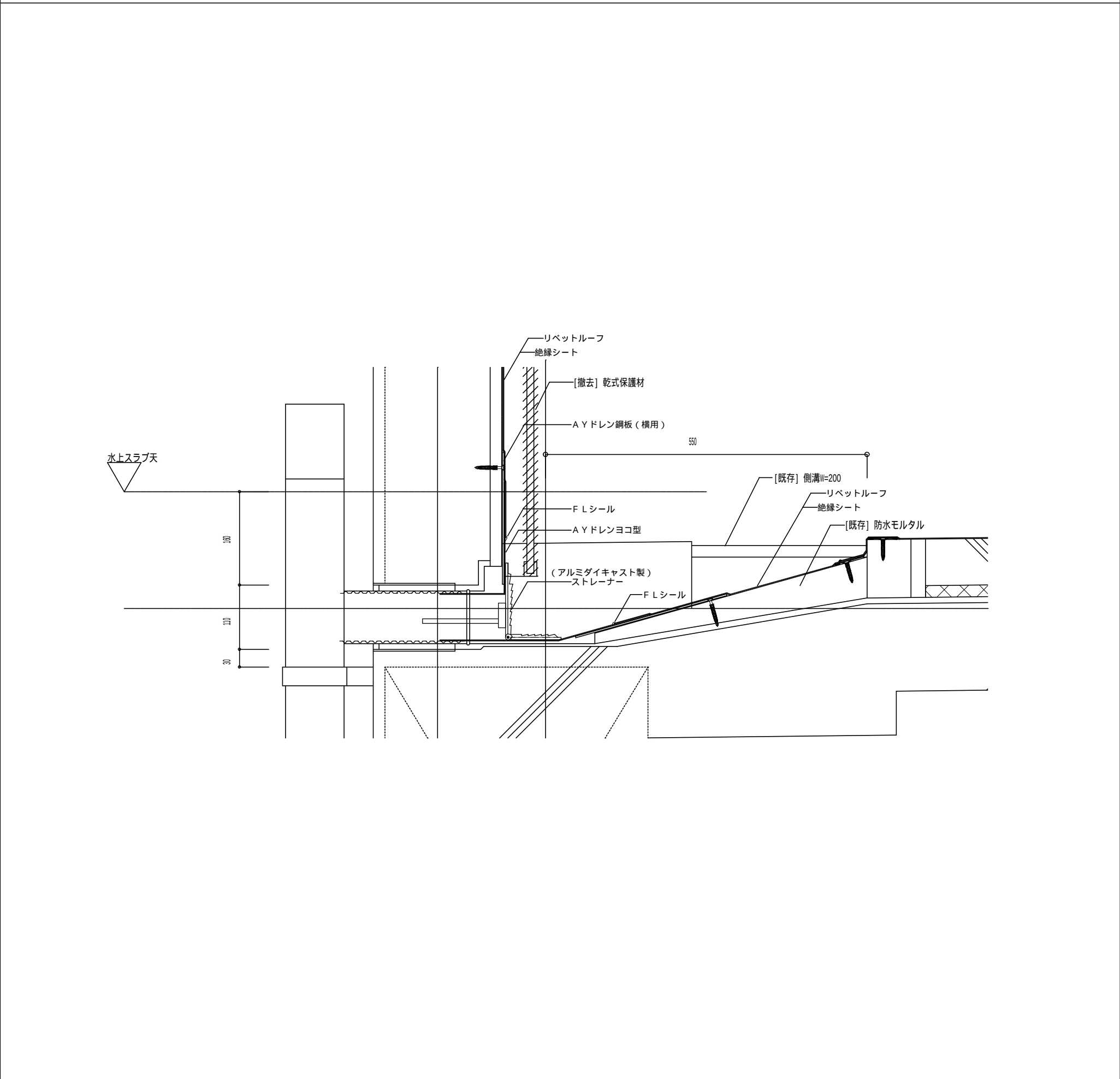
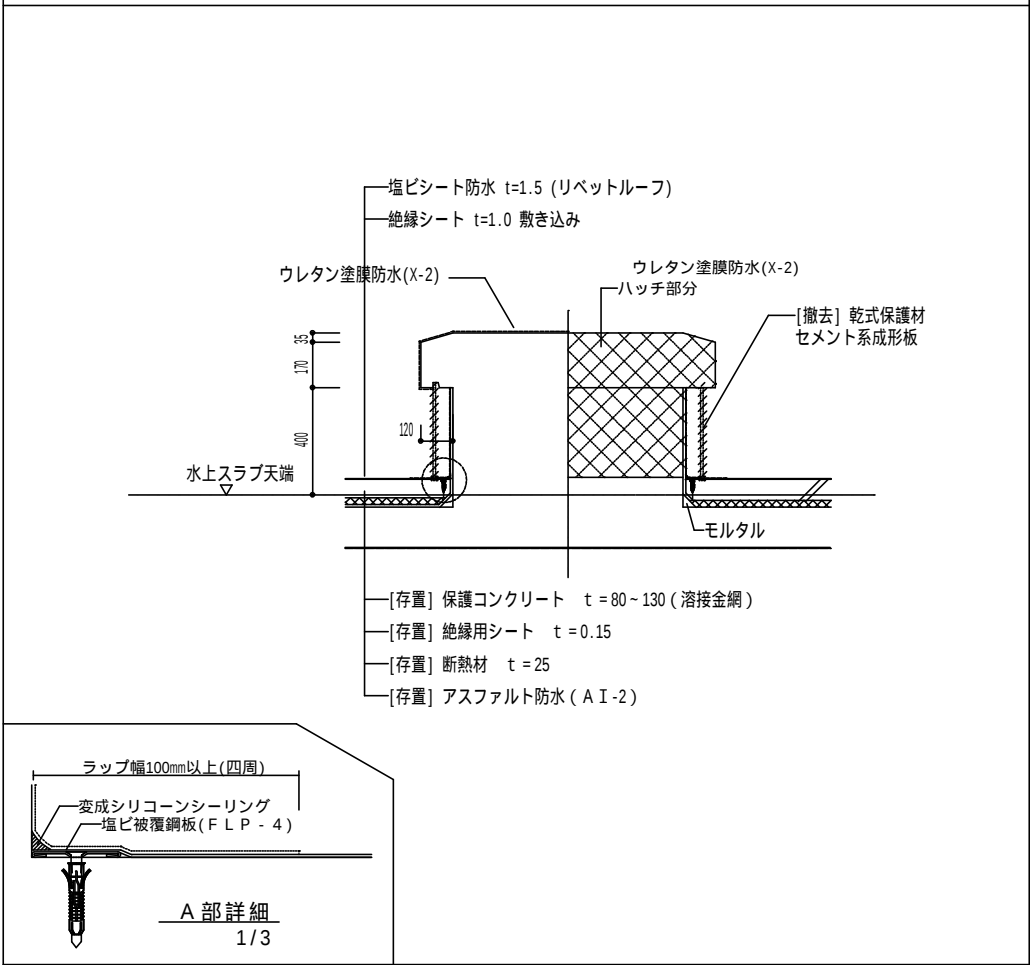
年 月 日 R7.03

Ver.H30_05

[illegible]

外部仕上表 支援施設棟															
項　目	現　　　況							改　　　修							
屋上	アスファルト防水 屋根保護防水密着断熱工法 伸縮目地@3000一部ボーダータイル貼 一部屋上緑化 防水立上り：アスファルト露出防水 乾式保護パネル 一部湿式レンガ積み [防水立上アゴ・機械基礎ほか] ウレタン塗膜防水(X-2)							既存アスファルト防水層・保護コンクリート ケレン清掃の上、通気シート+塩ビシート防水 t=1.5（リパットルーフ） 防水立上り：アスファルト露出防水存置。塩ビシート防水 t=1.5（リパットルーフ） 機械固定工法 [撤去]乾式保護パネル(セメント成形板) [防水立上アゴ・機械基礎上部ほか] 劣化部、浮き部撤去の上、ウレタン塗膜防水(X-2) 横引型ドレン 撤去、更新 機械固定工法							
笠木	アルミ笠木（アルミ笠木・腰水切・アルミアングル笠木）							アルミ笠木・腰水切 撤去の上、更新（腰水切用目地の拡幅カッター入）。アルミアングル水切撤去の上、アルミエッジ笠木新設							
外壁	コンクリート化粧打放しの上保護材 一部タイル貼 一部複層塗材RE							Con打放し部 高圧洗浄の上、下地調整材(C-2)下地、打放コンクリート用アクリルシリコン樹脂上塗り工法（SK化研 セラミRC-FR工法） 同等品							
外壁巾木	コンクリート化粧打放しの上保護材							非改修							
縦樋	ステンレス製105φ 一部塩ビ製100φ							非改修							
内部仕上表 支援施設棟 改修部分 / 天井伏図による															
項　目	現　　　況							改　　　修							
天井	石膏ボード t = 9.5の上 ロックウール化粧吸音板 t = 9 下地 / LGS 廻り縁 / 塩ビ							石膏ボード t=9.5 空調冷媒配管部 一時撤去、復旧（撤去範囲：図示） ロックウール化粧吸音板 t=9 改修範囲：図示 廻り縁 / 塩ビ 天井点検口一部新設（既存同等品） 改修見切り部：アルミ見切り縁設置(図示)							

	足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33 - 6022 FAX (0774) 33 - 6040	所長		主任		担当		工事名	宇治市産業振興センター改修機械工事（その２）	縮尺	SHEET	年 月 日
								図面名	仕 上 表		A-07	R7.03





	室名	天井仕上	下地	廻縁
1階	風除室	コンクリート化粧打放し 保護材	-	-
	ホール・ロビー	石こうボード t=9.5の上 ロックウール化粧吸音板 t=9	LGS	塩ビ
	情報コーナー	石こうボード t=9.5の上 ロックウール化粧吸音板 t=9	LGS	塩ビ
	廊下	石こうボード t=9.5の上 ロックウール化粧吸音板 t=9	LGS	塩ビ
	会議室	石こうボード t=9.5の上 ロックウール化粧吸音板 t=9	LGS	塩ビ
	事務室1・2	石こうボード t=9.5の上 ロックウール化粧吸音板 t=9	LGS	塩ビ
	打合せ室1・2	石こうボード t=9.5(不燃)の上 ロックウール化粧吸音板 t=9	LGS	塩ビ
	更衣室1・2	化粧石こうボード t=9.5	LGS	塩ビ
	湯沸室	化粧石こうボード t=9.5(不燃)	LGS	塩ビ
	便所	化粧石こうボード t=9.5	LGS	塩ビ
2階	倉庫	コンクリート化粧打放し	-	-
	ロビー・廊下	石こうボード t=9.5の上 ロックウール化粧吸音板 t=9	LGS	塩ビ
	IT支援スペース	石こうボード t=9.5の上 ロックウール化粧吸音板 t=9	LGS	塩ビ
	専用会議室1・2	石こうボード t=9.5の上 ロックウール化粧吸音板 t=9	LGS	塩ビ
	サーバールーム	化粧石こうボード t=9.5	LGS	塩ビ
	湯沸室	化粧石こうボード t=9.5(不燃)	LGS	塩ビ
	便所	化粧石こうボード t=9.5	LGS	塩ビ

- 下地石膏ボードt=9.5 想定位置
- 天井ボード(下地+化粧)撤去新設
- [既存] 天井点検口(450×450)
天井改修部分と重なる場合は、撤去・更新を行う。
- [新設] 天井点検口(450×450)